SONY®

4-156-541-**06**(1)

リニアPCM レコーダー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

PCM-M10

⚠警告 安全のために

事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

- **安全のための注意事項を守る**
- **故障したら使わない**
- **万一異常が起きたら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

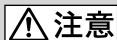
警告表示の意味

この取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなど人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

接触禁止

行為を指示する記号

指示

⚠警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

運転中は使用しない

- 自動車、オートバイなどの運転をしながらイヤーレシーバーなどを使用し たり、細かい操作をしたり、表示画面を見ることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。
- 運転中以外でも、踏切や駅のホーム、車の通る道、工事現場など、周囲の音が聞こえないと危険な場所では使用しないでください。
- また、歩きながら使用するときも、事故を防ぐため、周囲の交通や路面状況に充分ご注意ください。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電池を抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

火災や感電の原因となることがあります。とくに風呂場では絶対に使用しないでください。

指定以外のACパワーアダプターや充電器を使わない

破裂・液漏れや、過熱などにより、火災、けがや周囲の汚損の原因となります。

雷が鳴りだしたら、ACパワーアダプターに触れない

感電の原因となります。

この製品を海外で使用しない

感電の原因となります。付属のACパワーアダプターは日本国内専用です。
交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧で使用すると、火災・感電の原因となります。

濡れた手でACパワーアダプターをさわらない

感電の原因となることがあります。

本体やACパワーアダプターを布団などでおおった状態で使わない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

目次

準備

基本の操作

その他の録音操作

その他の再生操作

編集する

メニューについて

パソコンを活用する

その他

困ったときは

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。著作権の対象になっている画像やデータの記録されたメモリースティック™メディアは、著作権法の規定による範囲内で使用する以外はご利用いただけませんので、ご注意ください。

本製品はメモリースティック マイクロ™（M2™）メディアに対応しています。
“M2™”は“メモリースティック マイクロ™”の略称です。本文では今後略称M2™を用いて記述します。

上手な録音方法

リニアPCMレコーダーの高音質録音機能を利用して、様々なシーンに合わせた録音を楽しむことができます。ここでは、6つのシーンに合った簡単な録音、設定方法を紹介します。

アコースティックギターなどのひとりの楽器演奏を録音するとき

設置のポイント

- 楽器から約1m離れた三脚などの上にPCM-M10をセットします。
- 内蔵マイクをギターのサウンドホールに向けます。
- 付属のリモコンを使うと、演奏者の手許で録音スタート、停止、トラックマークなどの操作ができて便利です。

おすすめの設定

録音レベル	オート
マイク感度	高(H)

ピアノの演奏を録音するとき

設置のポイント

- 三脚などを使って、PCM-M10がピアノと同じ高さになるようにセットします。
- ピアノから約1.5m程度離れたところにPCM-M10をセットします。

おすすめの設定

録音レベル	オート
マイク感度	• ピアノから近いときは：低(L) • ピアノから遠いときは：高(H)

ジャズトリオなどグループの演奏を録音するとき

設置のポイント

- メインの楽器にできるだけ近い位置に、PCM-M10を三脚などにセットします。
- 録音をモニターをして、それぞれの楽器の音量がバランス良く聞こえる位置にPCM-M10を移動します。

おすすめの設定

録音レベル	オート
マイク感度	• 楽器から近いときは：低(L) • 楽器から遠いときは：高(H)

録音スタジオなどでバンドの演奏を録音するとき

設置のポイント

- 三脚などを使ってPCM-M10をセットします。
- 内蔵マイクをボーカルの正面に向けて、本体の向きと、スタンドの高さを調節します。
- 音量がバランス良く聞こえるように、ギターアンプやベースアンプの位置を調整します。

おすすめの設定

録音レベル	オート
マイク感度	低(L)

電子ピアノなどからライン接続で録音するとき

設置のポイント

- 電子ピアノのライン出力と、PCM-M10のLINE INジャックをケーブル(別売)で接続します。
- 本体の録音レベルダイヤルで、最適なレベルに調節して録音します。

おすすめの設定

録音レベル	マニュアル
リミッター	オン(メニューを使って設定します。)

お子様の演奏会やコーラスなど大人数の演奏をホールなどで録音するとき

設置のポイント

- 指揮者の位置、または会場のできるだけ前のほうに、PCM-M10をセットします。
- 内蔵マイクを演奏者のほうに向けます。

おすすめの設定

録音レベル	マニュアル
リミッター	オン(メニューを使って設定します。)

より良い録音のために

- 最も自然で抑揚のある録音をするにはマニュアル録音をおすすめします。(録音レベルダイヤルで、ご自身でのレベルの調節が必要です。)
- より良い録音結果を得るためには、録音をする前に、あらかじめためし録りをしてから録音することををおすすめします。
- 本機には「レベルガイド」機能が搭載されており、オート録音時にレベルが高すぎる場合には液晶画面にメッセージが表示されます。

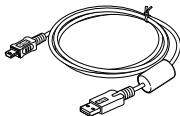
準備1： 箱の中身を確認する

本体(1)

表示窓に貼られているフィルムを剥がしてお使いください。

リモコン(1)

ACパワーアダプター (3V)(1)

USBケーブル(1)

ソニー単3形アルカリ乾電池(2)

ハンドストラップ(1)

CD-ROM（1）
（「Sound Forge Audio Studio LE」）

取扱説明書(1)

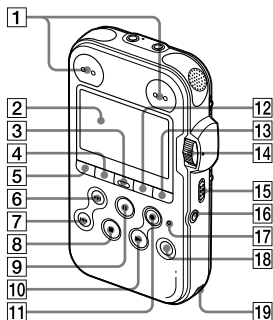
保証書(1)

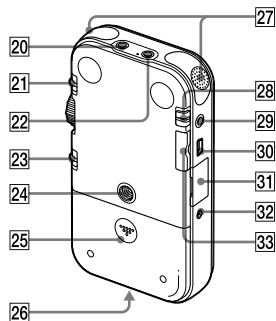
ソニーご相談窓口のご案内(1)

「Sound Forge Audio Studio LE」はパソコンでの加工やCD作成をサポートするアプリケーションソフトウェアです。ソフトウェアの紹介とインストールの方法は「Sound Forge Audio Studio LEのご案内」をご覧ください。

この取扱説明書で説明している以外の変更や改造を行った場合、本機を使用できなくなることがありますので、ご注意ください。

各部のなまえ

本体(表面)

1 ピークレベルL/R(–12dB/OVER)ランプ
2 表示窓
3 消去ボタン
4 メニューボタン
5 (フォルダ)ボタン
6 ▶▶I早送り/▲(上)ボタン
7 I◀◀早戻し/▼(下)ボタン
8 ■ 停止ボタン
9 II一時停止ボタン
10 ► 再生/決定ボタン*
11 ● 録音ボタン
12 (リピート) A-Bボタン
13 表示ボタン
14 録音レベルダイヤル
15 電源/ホールドスイッチ
16 リモコンジャック
17 アクセスランプ
18 トラックマークボタン
19 ストラップ取り付け部

本体(裏面)

20 LINE INジャック
21 録音感度(ATT)(アッテネーター)高(H)/低(L)スイッチ
22 (マイク)ジャック(プラグインパワー対応)*

23 録音レベル(マニュアル／オート)スイッチ

24 三脚取り付け用穴(三脚は付属されていません。)

25 電池ぶた

26 スピーカー（底面）

27 内蔵マイク(ステレオ)

28 DPC（速度調節)入／切スイッチ

29 ∩ /LINE OUT（ヘッドホン／ライン出力）ジャック

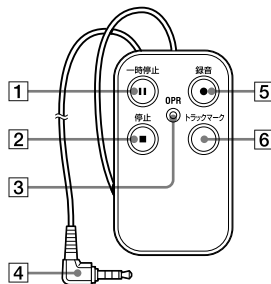
30 ⭠(USB)端子

31 M2™/microSDメモリーカードスロット

32 DC IN 3Vジャック

33 音量＋*／－ボタン

* 凸点(突起)がついています。操作の目安、端子の識別としてお使いください。

リモコン(付属)

1 ❚❚ 一時停止ボタン

2 ■ 停止ボタン

3 OPR（動作)ランプ

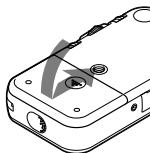
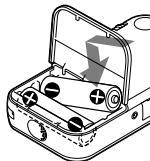
4 接続プラグ

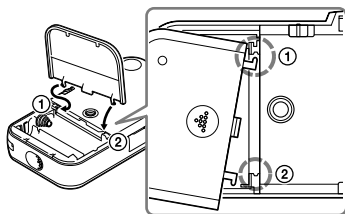
5 ● 録音ボタン

6 トラックマークボタン

準備2：電池を入れる

1 電池ぶたを矢印の方向へずらして開ける。

2 単3形アルカリ乾電池(付属)を入れ、ふたを閉める。

電池の⊕、⊖の向きを正しく入れてください。

電池ぶたがはずれてしまったときは

電池ぶたは落としたり、無理な力を加えたりするとはずれることがあります。そのときは上の図のように、電池ぶたの一方のツメを本体の穴に差し込み(①)、もう一方のツメを本体のスリットに合わせ(②)電池ぶたを立てて、上から押し込みはめ直してください。

別売の充電式の電池を使うときは

本機では、充電式ニッケル水素電池も使用できます。充電池をお使いになる場合は、メニューの「詳細メニュー」から、「電池設定」を選び、「ニッケル水素電池」を選んでください。設定を行うことで、ニッケル水素電池の電池残量表示が、より正確に表示されます。
詳しくは、「メニューの使いかた」(69ページ)をご覧ください。

ヒント

- 充電池で満充電状態でも、本機に入れたときに電池残量表示がフル状態を示さない場合があります。
- 充電器は常温で使用してください。
- 充電式電池および充電器は、以下の製品をご利用ください。
  －充電式ニッケル水素電池：NH-AA-2BKA
  －ニッケル水素電池専用急速充電器：BCG-34HRES

電池を交換する時期

電池の残量が少なくなってくると、表示窓の表示でお知らせします。

電池の残量表示

（電池アイコン）：「電池が残りわずかです」が表示されます。電池の交換時期が近づいています。

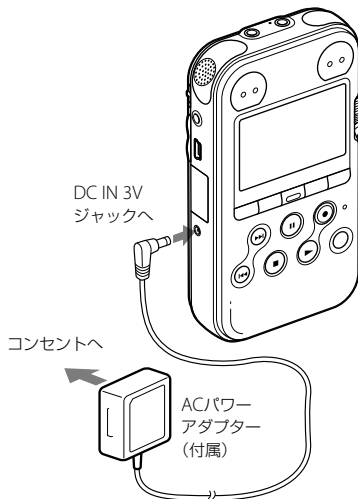
↓

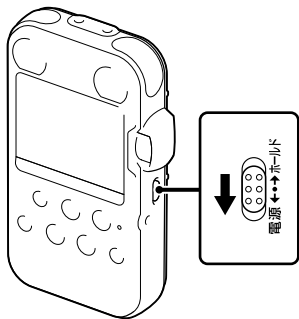
（電池アイコン）：「電池残量がありません」が表示され、操作ができなくなります。

ヒント

- 本機にはマンガン電池はお使いになれません。
- 電池を交換する際、電池をとりはずしても録音したトラックは消えません。
- 電池を交換する際、電池をとりはずしても約3分間、時計は動いています。
- 電池を交換するときは、電源を切ってください。
- 違う種類の電池を一緒に使わないでください。

ACパワーアダプターを接続して使う

付属のACパワーアダプターをDC IN 3Vジャックに最後まで挿し込み接続します。

準備3：電源を入れる

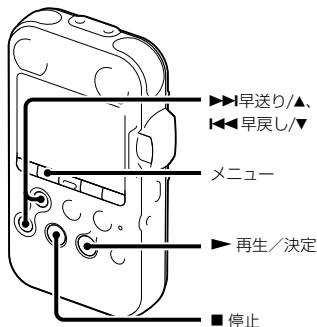
電源を入れるには

電源／ホールドスイッチを「電源」の方向へ1秒以上スライドすると、「アクセス中...」のアニメーションが表示され電源が入ります。

電源を切るには

電源／ホールドスイッチを「電源」の方向へ2秒以上スライドすると、「See You!」のアニメーションが表示されます。
しばらくたつと表示が消灯して電源が切れます。

ヒント

- 表示窓に「アクセス中..」と表示されている間や、アクセスランプが点滅している間は、メモリーへアクセス中です。アクセス中は、電池をはずしたり、ACパワーアダプターを抜いたり、USBケーブルを抜き差ししたりしないでください。データが破損する恐れがあります。
- 長時間ご使用にならない場合は、電源を切り、電池を抜いておくことをおすすめします。
- 電源を入れて停止状態のまま約10分経過すると、自動的に表示が消え、スリープモードになります。（ボタンを押せば、操作できます。）

準備4：時計を合わせる

本機は、本体内時計の日時をもとに、録音した音声ファイル(トラック)の名前を付けます。あらかじめ、時計を合わせておくと、録音日時を正確に記録できます。
時計が設定されていない状態で電源を入れると、「時計を設定してください」と表示された後、「時計設定」画面が表示され、年表示が点滅します。

電池を入れたあとすぐに時計を合わせる

1 年月日と時分を合わせる。
▶▶I早送り/▲またはI◀◀ 早戻し/▼ボタンを押して、年の数字を選び、▶再生／決定ボタンを押して決定する。
同様に、月、日、時、分の順に設定する。

2 停止画面に戻すには ■ 停止ボタンを押す。

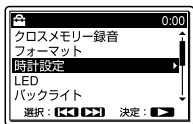
メニューを使って時計を合わせる

停止中にメニューを使って時計を合わせることができます。

1 停止中にメニュー画面で「時計設定」を選ぶ。

① メニューボタンを押してメニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

② ▶▶I早送り/▲またはI◀◀早戻し/▼を押して、「詳細メニュー」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

③ ▶▶I早送り/▲またはI◀◀早戻し/▼を押して、「時計設定」を選び、►再生 ／決定ボタンを押す。

2 ▶▶I早送り/▲またはI◀◀早戻し/▼ボタンを押して、日付を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

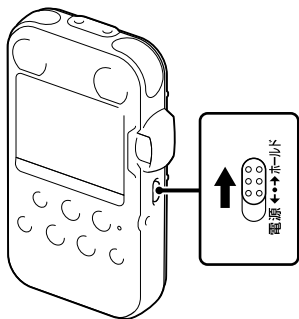
3 年月日と時分を合わせる。
▶▶I早送り/▲またはI◀◀早戻し/▼ボタンを押して、年の数字を選び、►再生／決定ボタンを押して決定する。
同様に、月、日、時、分の順に設定する。

4 停止画面に戻すには ■ 停止ボタンを押す。

ご注意

- それぞれの手順の間を1分以上あけると、時計合わせがキャンセルされ、通常の表示に戻ります。
- 電池を抜いたまま3分間放置すると、時計はお買い上げ時の設定に戻ります。この場合は、時計を設定し直してください。

誤操作を防止する－ホールド

本体のボタンを操作できなくするには

電源／ホールドスイッチを「ホールド」の方向にスライドします。
「ホールド」が約3秒間表示され、本体のボタンが操作できなくなります。

本体のボタンを操作できるようにするには

操作できるようにするには、電源／ホールドスイッチを中央位置にスライドします。

ご注意

録音中にホールドにした場合、本体のボタン操作ができなくなり、誤操作を防止します。録音を止めるには、まずホールドを解除してください。

ホールド中でもリモコンを使って操作できます。

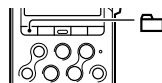
ホールド中も、リモコンジャックに接続した付属のリモコンのボタンを押して、録音、録音一時停止、停止、トラックマーク追加などの操作を行えます。

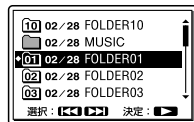
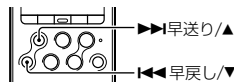
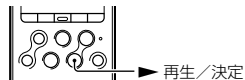
録る

ご注意

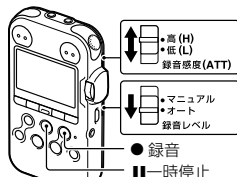
録音を始める前に、電源を入れてください。

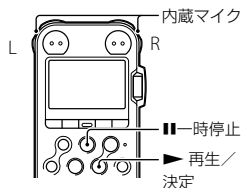
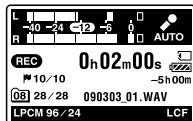
フォルダを選ぶ

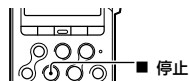
1 停止中に、□（フォルダ）ボタンを押して、フォルダ選択画面を表示する。

2 ▶▶I早送り／▲またはI◀◀早戻し/▼ボタンを押して録音したいフォルダ（□ FOLDER 01 〜 10）を選ぶ。

お買い上げ時には10個のフォルダが作られています。

3 ► 再生／決定ボタンを押す。

録音を始める（オート録音）

1 録音レベルスイッチを「オート」に設定し、停止中に ● 録音ボタンを押して、録音スタンバイにする。

● 録音ボタンが赤く点灯、❚❚一時停止ボタンがオレンジに点滅し、録音スタンバイ状態になります。
「オート」設定時は、自動的に録音レベルを調節して録音します。録音レベルダイヤルは、「マニュアル」設定時に有効になります。
録音感度（ATT）スイッチで録音感度の設定を変更することができます。

2 内蔵マイクを録音する音の方向に向け、❚❚一時停止ボタン、または► 再生／決定ボタンを押して、録音を開始する。

録音が始まります。新しいトラックは、選択したフォルダ内の一番最後に録音されます。

録音を止める

■ 停止ボタンを押す。
アクセスランプがオレンジに点滅し、今録音したトラックのはじめで停止します。

アクセス中のご注意

アクセスランプがオレンジに点滅している間は、メモリーへ録音データを記録しています。アクセス中は、電池をはずしたり、ACパワーアダプターや接続ケーブルを抜き差ししないでください。データが破損するおそれがあります。

その他の操作

録音を一時停止する	❚❚ 一時停止ボタンを押す。 録音一時停止中は、●❚❚（録音一時停止）表示が点滅します。
一時停止を解除する	もう一度 ❚❚ 一時停止ボタン、または► 再生 ／決定ボタンを押す。 先ほど録音していたトラックに続けて録音することができます。（録音一時停止後、録音を続けず、停止するときは、■ 停止ボタンを押します。）

ヒント

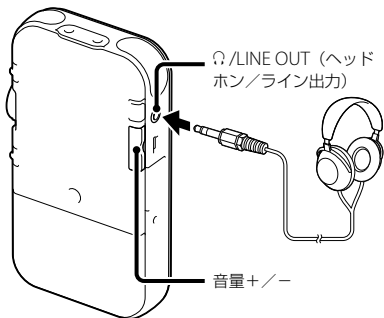
- ひとつのフォルダには最高99のトラックが録音できます。
- 録音スタンバイ中に、過度な録音レベルを検出すると（–1dB以上）、ピークレベルL/RのOVERランプが赤く点灯し、以下のレベルガイドが表示されます。録音位置を遠ざける、または録音感度スイッチを「低（L）」の位置にすると解決する場合があります。それでも、解決できない場合は、マニュアル録音に切り換えてください。（31ページ）

- メモリーカードをお使いの場合、内蔵メモリーの残量がなくなると自動的にメモリーカードに切り換えて録音を行うことができます。（**クロスメモリー録音**）（37ページ）
- 付属のリモコンを接続しているときは、リモコンの● 録音ボタン、 ❚❚ 一時停止ボタン、または■ 停止ボタンを押して、録音操作ができます。
- 録音をする前に、あらかじめためし録りをすることをおすすめします。

ご注意

- 録音中、操作ボタンを押すなど、本機に触れたり、本機を手に持つことで、操作音やタッチノイズが録音されてしまうことがあります。ご注意ください。
- ● 録音ボタンは、録音中ずっと押し続ける必要はありません。
- 録音を始める前に必ず電池残量表示（14ページ）を確認してください。
- オート録音時には録音レベルダイヤル操作やリミッターは効きません。

録音中の音をヘッドホン（別売）で聞く（モニターする）

ヘッドホン（別売）を 🎧/LINE OUT（ヘッドホン／ライン出力）ジャックにつなぐと、録音している音をモニターすることができます。
ヘッドホンからの音量（モニター音量）は、音量＋／－ボタンを押して調節します。録音される音量に影響はありません。

ご注意

メニューの「Audio Out」が「ヘッドホン」に設定されていることをご確認ください。「LINE OUT」に設定されているときは、ヘッドホンを接続しないでください。ヘッドホンからの再生音が非常に大きくなります。お買い上げ時、「Audio Out」（56ページ）は、「ヘッドホン」に設定されています。

聞く

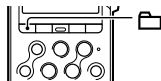
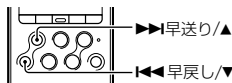
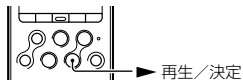
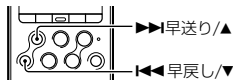
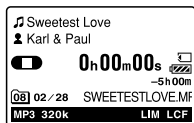
ご注意
再生を始める前に、電源を入れてください。

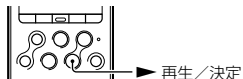
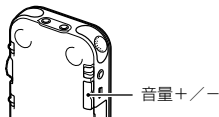
再生を始める前に

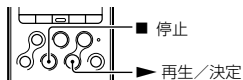
より良い音質で再生音を聞くために、ヘッドホン(別売)を、🎧/LINE OUT（ヘッドホン／ライン出力)ジャックに接続する。

ご注意
メニューの「Audio Out」が「ヘッドホン」に設定されていることをご確認ください。「LINE OUT」に設定されているときは、ヘッドホンを接続しないでください。ヘッドホンからの再生音が非常に大きくなります。お買い上げ時、「Audio Out」(56ページ)は、「ヘッドホン」に設定されています。

再生を始める

1 停止中に、🗀（フォルダ）ボタンを押す。

2 ▶▶I早送り／▲ またはI◀◀ 早戻し/ ▼ ボタンを押してフォルダを選ぶ。

3 ► 再生／決定ボタンを押す。

4 ►►I早送り／▲またはI◄◄早戻し/▼ボタンを押して再生したいトラックを選ぶ。

5 ► 再生 ／決定ボタンを押して再生を始める。

► 再生／決定ボタンが緑に点灯します。
（メニュー 「LED」を「オフ」に設定しているときは消灯します（75ページ）。）

6 音量＋／－ボタンを押して音量を調節する。

再生を止める

■ 停止ボタンを押す。
その位置で停止します。► 再生 ／決定ボタンを押すと、止めたところから再生が始まります。

その他の操作

再生を一時停止する	❚❚ 一時停止ボタンを押す。解除するには再度押す。または► 再生 ／決定ボタンを押す。 一時停止中は、▶❚❚(再生一時停止)表示が点滅します。
今聞いているトラックの頭に戻る	⏮ 早戻し/ ▼ ボタンを短く1回押す。*1
前のトラック、さらに前のトラックに戻る	⏮ 早戻し/ ▼ ボタンを短く押す。さらに戻るには短く何回か押す。*2 (停止中は押したままにすると、連続して戻ります。*3)
次のトラックに進む	⏭早送り／ ▲ボタンを短く1回押す。*1
さらに次のトラックに進む	⏭早送り／ ▲ボタンを短く何回か押す。*2 (停止中は押したままにすると、連続して進みます。*3)
早送り再生する(キュー)	再生中に、⏭早送り／ ▲ボタンを押したままにする。*4
早戻し再生する(レビュー)	再生中に、⏮ 早戻し/ ▼ ボタンを押したままにする。*4

*1 トラックマークが設定されている場合は、前後のトラックマークの位置まで戻り、または進みます(58ページ)。
*2 メニュー の「イージーサーチ」が「オフ」に設定されている場合の操作です(74ページ)。
*3 トラックマークには止まりません。
*4 ボタンを押し続けると、最初は少しずつ早送り、早戻しされます。しばらくそのままにすると段階的に高速で早送り、早戻しされます。

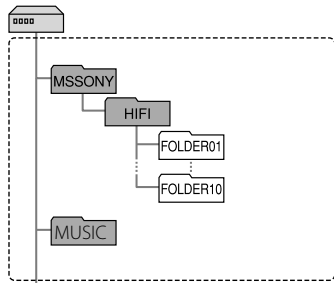
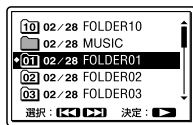
聞きたいところをすばやく探すには(イージーサーチ機能)

メニューの中で「イージーサーチ」を「オン」に設定しておくと、再生中に ⏮ 早戻し/ ▼ ボタンを1回押すごとに約3秒前、⏭早送り／ ▲ ボタンを1回押すごとに約10秒先を早戻し、早送りして聞くことができます(48ページ)。

本機で再生できるトラック

本機で録音したLPCM (WAV)またはMP3ファイルのほか、パソコンなどからコピーしたWMA、AAC-LC (m4a)、MP3、LPCM (WAV)ファイルも再生可能です。

フォルダを選ぶには

本機では、以下のフォルダ構成で録音したトラック、パソコンなどからコピーしたファイルが保存されています。フォルダには2種類あり、フォルダ選択画面でのフォルダ表示で区別できます。

内蔵メモリー内の
フォルダ構造（一部）

フォルダ選択画面

: 本機で録音したトラックが入るフォルダ（お買い上げ時にFOLDER01からFOLDER10まで作成されています。）

: パソコンからコピーしたファイルなどが入るフォルダ（パソコンからコピーしたときに表示されます。）

消す

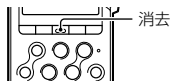
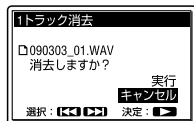
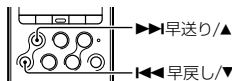
ご注意

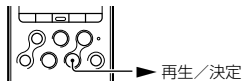
- 一度消去したトラックはもとに戻すことはできません。ご注意ください。
- 消去を始める前に、電源を入れてください。

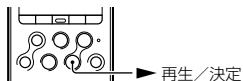
トラックを選び消去する

1 停止中または再生中に消去したいトラックを選ぶ。

2 消去ボタンを押す。

確認画面が表示されます。

3 ▶▶I早送り／▲ またはI◀◀早戻し/▼ ボタンを押して、「実行」を選ぶ。

4 ► 再生／決定ボタンを押す。

「消去中. . .」が表示され、1トラックが消去されます。
トラックを消すと、次のトラックが自動的に繰り上がるので、間に空白部分は残りません。

途中で消去をやめる

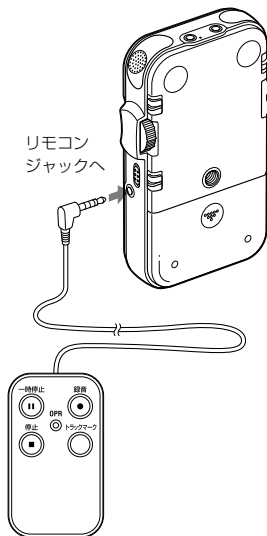
「トラックを選び消去する」の手順3で「キャンセル」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

他のトラックを消去するには

「トラックを選び消去する」の手順1 ～手順4を繰り返します。

ひとつのトラックの一部分だけ消去するには

メニュー内の「分割」機能でトラックを分割して、消去する部分としない部分に分け、消去したい部分のトラック番号を選んで「トラックを選び消去する」の手順1から4の操作をします。

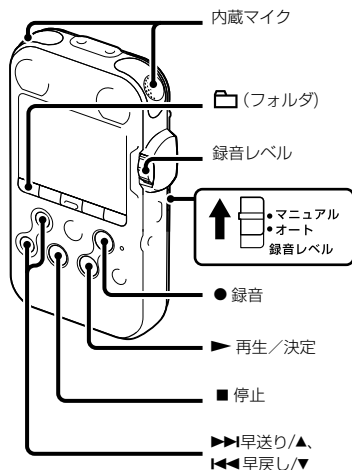
録音の方法を変える

リモコンを使って録音する

付属のリモコンを使って、リモコンから録音操作ができます。
リモコンを本体のリモコンジャックに奥までしっかり差し込みます。

本体がホールド中も、リモコンのボタンを押して、録音、録音一時停止、停止、トラックマーク追加などの操作ができます。

ヒント

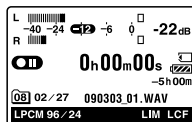
- リモコンを使って操作することにより、本体のボタンを押したり、本体に触れたり、本体を持ち上げたりする際に発生する雑音が録音されるのを防ぎます。よりノイズの少ない録音が可能です。
- リモコンを使うことにより、本体を、複数の演奏者の中央や舞台の近くなど、最も録音に適した位置に配置し、離れたところから録音や停止などの操作を行うことができるため、より臨場感のある自然なステレオ録音が可能になります。

マニュアル録音する

録音レベルスイッチを「マニュアル」に設定すると、音源の状態に合わせて録音レベルを手動で調節することができます。また、必要に応じて「リミッター」（42ページ）や「LCF（Low Cut Filter）」（41ページ）などの設定をすることにより、音割れなどの症状を低減することができます。

1 録音レベルスイッチを「マニュアル」にあわせる。

2 フォルダを選ぶ。

3 ● 録音ボタンを押す。

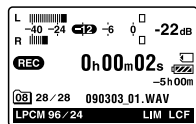
録音スタンバイ状態になります。マイクの音が入ると、表示窓のレベルメーターが動きます。

4 音源の状態に合わせて、録音レベルダイヤルを調節する。

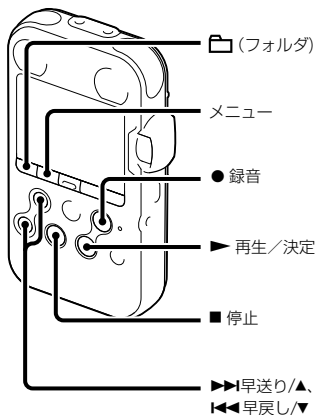
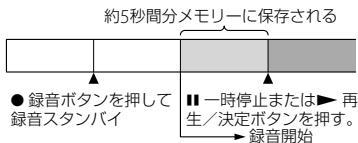
録音レベルは、ピークレベルL/R（–12dB/OVER）ランプと表示窓のピークメーターの両方で確認できます。–12dBを目安に、音源にあった適切な範囲に調節します。

表示窓にOVER表示が出たとき、ピークレベルのOVERランプが赤く点灯(-1dB以上)のときは音がひずむ場合がありますので、録音レベルを下げてください。

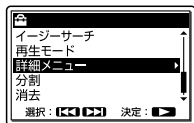
5 録音状態に合わせた設定をする。

メニュー項目で、必要に応じて「リミッター」(42ページ)や「LCF (Low Cut Filter)」(41ページ)などの録音に関係ある設定をします。

6 録音を始めるには、II一時停止ボタン、または► 再生／決定ボタンを押す。

7 録音を止めるには■ (停止)ボタンを押す。

少し前から録音する — プリレコーディング機能

● 録音ボタンを押す約5秒前の音から録音を開始することができます。インタビューや野外録音など、急な録音機会を逃したくない場合に便利です。

1 メニューボタンを押して、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

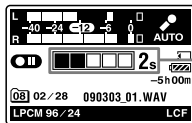
2 ►►I 早送り／▲ または I◄◄ 早戻し／▼ ボタンを押して、「詳細メニュー」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

3 ►►I 早送り／▲ または I◄◄ 早戻し／▼ ボタンを押して、「プリレコーディング」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

4 ►►I 早送り／▲ または I◄◄ 早戻し／▼ ボタンを押して、「オン」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

5 ■ 停止ボタンを押してメニューモードを終了する。

6 フォルダを選ぶ。

7 ● 録音ボタンを押す。

録音スタンバイ状態になります。
プリレコーディングが開始され、最大5秒前の音声を蓄積していきます。

8 録音を始めるには、II一時停止ボタン、または► 再生／決定ボタンを押す。

録音スタンバイが解除され、手順7で蓄積した音声から継続して録音を開始します。

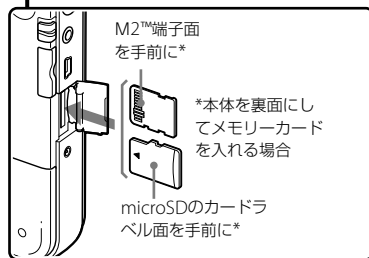
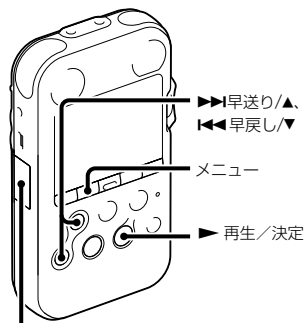
9 録音を止めるには■ 停止ボタンを押す。

ご注意

- 内蔵マイクを使ってプリレコーディングをしようとすると、● 録音ボタンを押すときに雑音が入る場合があります。プリレコーディングをする場合は付属のリモコンまたは外部マイクを使って録音することをおすすめします。
- 録音可能時間が10秒未満になるとプリレコーディングはできません。不要なファイルを削除してから行ってください。
- 手順8を行う前に録音を停止した場合、メモリーに蓄積されたプリレコーディングした音声は保存されません。

プリレコーディング機能を解除するには

手順4で「プリレコーディング」を「オフ」にします。

メモリーカードに録音する

本機では、内蔵メモリーの他に、別売のメモリーカードに音声を記録できます。

本機で使用できるメモリーカード

本機では、以下のメモリーカードをお使いになれます。

- メモリースティック マイクロ™（M2™）：16 GBまで対応。
  M2™の対応表については、http://www.sony.jp/products/ms/compatible/icrecorder.html をご覧ください。
- microSDカード： 2 GB以下（FAT16）のmicroSDまたは4 GB ～ 16 GB（FAT32）のmicroSDHC。

64 MB以下のカードについては対応しておりません。
当社基準において動作確認をしたmicroSD/microSDHCカードは次のとおりです。

発売元	1 GB	2 GB	4 GB	8 GB	16 GB
東芝	○	○	○	○	○
Panasonic	○	○	○	○	○
SanDisk	○	○	○	○	○

○：動作確認済み
–：未確認　2009年9月現在
PCM-M10では、2009年9月現在発売されているmicroSD、microSDHCメモリーカードによる動作確認を行っています。

本書では、M2™とmicroSDカードを総称して「メモリーカード」と呼びます。
また、M2™/microSDメモリーカードスロットは「メモリーカードスロット」と呼びます。

メモリーカードに記録・再生できるファイルのサイズは本機の仕様上、1ファイルにつきLPCMは2 GB未満、MP3、AAC-LC、WMAは1 GB未満です。
メモリーカードに記録できる最大曲数は5,000曲です。

ご注意
すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

メモリーカードを入れる

録音する前に、メモリーカードに保存されているデータをパソコンに保存し、本機でフォーマットして空の状態にしてからお使いください。

1 停止中にメモリーカードスロットのカバーを開ける。

2 前ページの図の向きで、M2™またはmicroSDカードをメモリーカードスロットに、カチッと音がする奥までしっかり差し込み、カバーを閉める。

メモリーカードを取り出すには

アクセスランプが消えていることを確認して、メモリーカードを一度奥に押します。手前に出てきたら、メモリーカードスロットから取り出します。

フォルダとトラックのファイル構成について

内蔵メモリーのフォルダとは別に、メモリーカード内に10個のフォルダが作成されます。フォルダとトラックのファイルの構成は、内蔵メモリーとは異なります（80ページ）。

ご注意

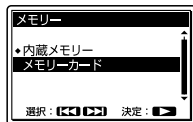
- 録音/再生中は、メモリーカードを抜き差ししないでください。故障の原因となります。
- 表示窓に「アクセス中...」と表示されている間や、アクセスランプがオレンジに点滅している間はメモリーカードを取り出さないでください。データが破損する恐れがあります。
- メモリーカードが認識されない場合はメモリーカードを取り出し、再度入れ直してください。
- メモリーカードスロットのカバーは、しっかり閉じてください。また、挿入口には、液体・金属・燃えやすいものなど、メモリーカード以外のものは挿入しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

メモリーカードを使えるようにする（メモリー設定）

1 メニューボタンを押して、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

2 ▶▶I 早送り／▲ または I◀◀ 早戻し／▼ ボタンを押して、「メモリー」を選び、▶ 再生／決定ボタンを押す。

3 ▶▶I 早送り／▲ または I◀◀ 早戻し／▼ ボタンを押して、「メモリーカード」を選び、▶ 再生／決定ボタンを押す。

4 ■ 停止ボタンを押してメニューモードを終了する。

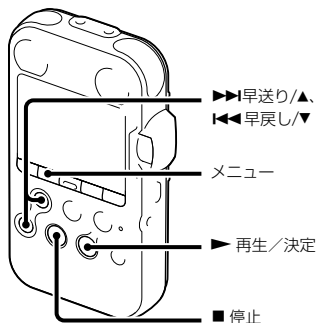
内蔵メモリーに戻すには

手順3で「内蔵メモリー」を選びます。

録音を開始するには

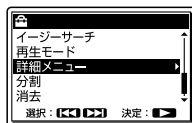
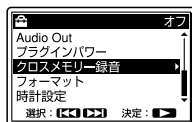
フォルダを選び、● 録音ボタンを押して、録音スタンバイ状態にします。録音を始めるには、II一時停止ボタン、または▶ 再生／決定ボタンを押します。

オート録音については20ページ、マニュアル録音については31ページをご覧ください。

メモリーを切り換えて録音を続ける— クロスメモリー機能

内蔵メモリーまたはメモリーカードの残量が録音途中でなくなった場合でも、自動的にもう一方のメモリーに切り換えて録音を続けることができます。（クロスメモリー機能）

1 メニューボタンを押して、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

2 ▶▶I 早送り／▲ または I◀◀ 早戻し／▼ ボタンを押して、「詳細メニュー」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

3 ▶▶I 早送り／▲ または I◀◀ 早戻し／▼ ボタンを押して、「クロスメモリー録音」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

4 ▶▶I 早送り／▲ または I◀◀ 早戻し／▼ ボタンを押して、「オン」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

5 ■ 停止ボタンを押してメニューモードを終了する。

通常の録音に戻すには

手順4で「オフ」を選びます。

録音中にメモリーがいっぱいになると

表示窓に「メモリーを切り換えて録音を継続します」というメッセージが表示され、もう一方のメモリーの録音可能な番号の若いフォルダに、新しいトラックとして続いて録音されます。

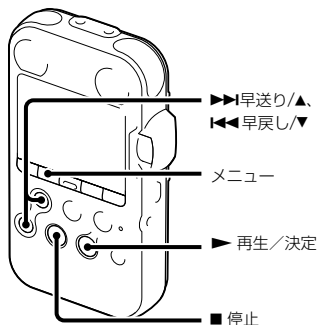
新しいトラックは、新しいファイル名で作成されます。

録音を終了すると、移動先のトラックの先頭で停止します。

ご注意

- 移動先のメモリーもいっぱいで録音できないときは、メッセージが表示され、録音が停止します。
- クロスメモリー録音で録音されたトラックを再生しても、自動的に移動先のトラックは続けて再生されません。
- クロスメモリー録音をする場合、メニューの「メモリー」から、メモリーカードが認識できることをあらかじめ確認してください。（36ページ）

録音の設定を変える

録音モードを選ぶ

停止中、メニューで用途に応じた録音モードを選ぶことができます。

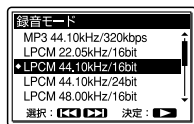
録音モードについて

本機での録音は、LPCM（リニアPCM)とMP3の2種類の録音モードに対応しています。それぞれの録音モードは以下のような特長があります。

- LPCM（リニアPCM）：WAVファイルとも呼ばれ、音声を圧縮せずにMP3より高音質な録音が可能です。一方ファイルサイズが大きくパソコンへのコピーに時間がかかり、リニアPCMレコーダーでの録音時間はMP3より短くなります。音質を重視した録音の場合におすすめです。
- MP3：音声を圧縮する一般的な方式で、多くのパソコン環境で再生が可能です。

1 メニューボタンを押して、メニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

2 ▶▶I 早送り／▲またはI◀◀早戻し／▼ボタンを押して、「録音モード」を選び、▶ 再生／決定ボタンを押す。

3 ▶▶I 早送り／▲またはI◀◀早戻し／▼ボタンを押して、録音モード選び、▶ 再生／決定ボタンを押す。

LPCM 22.05kHz/16bit
LPCM 44.10kHz/16bit*
LPCM 44.10kHz/24bit
LPCM 48.00kHz/16bit
LPCM 48.00kHz/24bit
LPCM 96.00kHz/16bit
LPCM 96.00kHz/24bit

LPCM（非圧縮）モード
より高音質で録音されます。

MP3 44.10kHz/64kbps**
MP3 44.10kHz/128kbps
MP3 44.10kHz/320kbps

MP3（圧縮）モード
より高音質で録音できます。

*　お買い上げ時の設定
**　長時間録音用

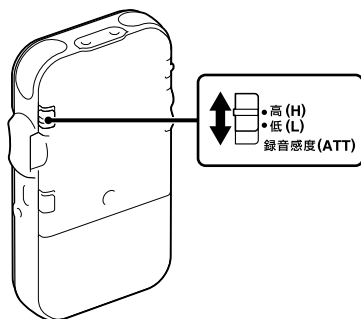
4 ■ 停止ボタンを押してメニューモードを終了する。

ご注意

録音中は「録音モード」の切り換えはできません。

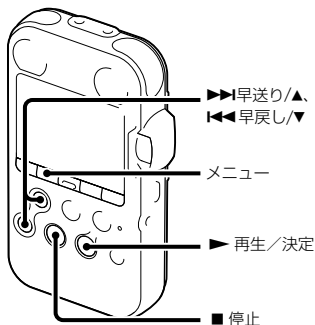
録音モードの量子化ビット数とサンプリング周波数とは？

- サンプリング周波数とは、アナログ信号からデジタル信号への変換（A/D変換）を1秒間に何回行うかを表す数値です。数値が高いほど音質は向上し、データ量が増えます。
- 量子化ビット数とは、1秒間の音声に与えるデータ容量を表す数値です。数値が高いほど多くのデータ容量が与えられ、音質が向上します。

マイク感度を選ぶ

停止／録音時に本体の録音感度（ATT）スイッチで、マイク感度設定を切り換え、用途に合わせて、内蔵マイクと、（マイク）ジャックに接続した外部マイクの感度を選ぶことができます。
録音状況や目的に合わせて、スイッチの位置を録音または停止中に切り換えます。

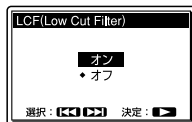
高(H)*：	通常はこの位置に合わせます。 • マイクアッテネートが「H」に設定されます(マニュアル録音時)。 • マイク感度が高感度に設定されます(オート録音時)。
低(L)：	大きな音を録音するときにこの位置に合わせます。 • マイクアッテネートが「L」に設定されます(マニュアル録音時)。 • マイク感度が低感度に設定されます(オート録音時)。

* お買い上げ時は、「高(H)」に設定されています。

低い周波数の音をカットする — LCF(Low Cut Filter)機能

停止／録音時にメニューで設定します。
「LCF(Low Cut Filter)」を「オン」にすると、低い周波数の音をカットし、空調音などのノイズや風切り音を軽減することで、音声をよりクリアに録音できます。

1 メニューボタンを押して、メニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

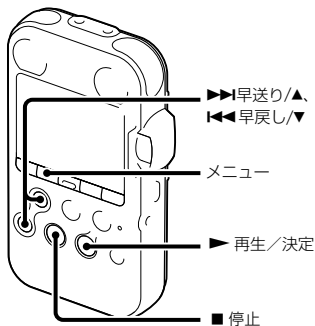
2 ▶▶I 早送り／▲またはI◀◀早戻し/▼ボタンを押して、「LCF(Low Cut Filter)」を選び、▶ 再生／決定ボタンを押す。

3 ▶▶I 早送り／▲またはI◀◀早戻し/▼ボタンを押して、「オン」を選び、▶ 再生／決定ボタンを押す。

お買い上げ時は「オフ」になっています。

4 ■ 停止ボタンを押してメニューモードを終了する。

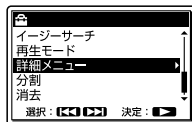
LCF（Low Cut Filter）を解除するには

手順3で「LCF (Low Cut Filter)」を「オフ」にします。

音のひずみを防ぐ — リミッター機能

停止／録音時にメニューで設定します。
「リミッター」を「オン」にすると、マニュアル録音時、音の過大な部分は最大入力レベルに自動で調節され、音のひずみを防ぎます。

1 メニューボタンを押して、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

2 ▶▶I 早送り／▲ または I◀◀ 早戻し／▼ ボタンを押して、「詳細メニュー」を選び、▶ 再生／決定ボタンを押す。

3 ▶▶I 早送り／▲ または I◀◀ 早戻し／▼ ボタンを押して、「リミッター」を選び、▶ 再生 ／決定ボタンを押す。

4 ▶▶I 早送り／▲ または I◀◀ 早戻し／▼ ボタンを押して、「オン」を選び、▶ 再生／決定ボタン押す。

お買い上げ時は「オフ」に設定されています。

5 ■ 停止ボタンを押してメニューモードを終了する。

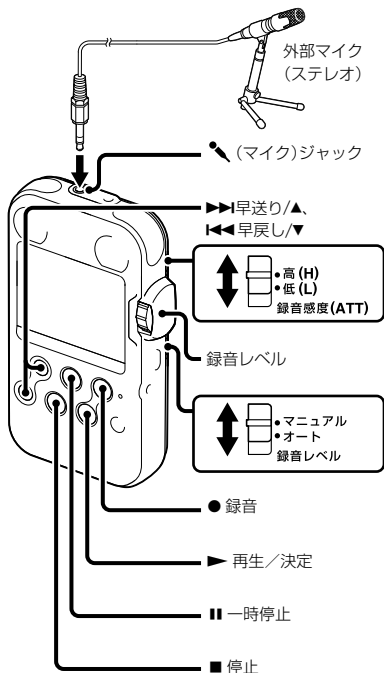
リミッター機能を解除するには

手順4で「オフ」にします。

ご注意

- 録音レベルスイッチが「オート」に設定されているときは、リミッター機能は働きません。
- リミッター機能を「オン」に設定しているときは最大入力レベルから+12 dBまでの入力に対応します。それ以上の入力があった場合は、歪が発生します。

外部機器と接続して録音する

外部マイクをつないで録音する

別売の外部マイクから録音できます。内蔵マイクとLINE INジャックからの入力は無効になります。

1 停止中に外部マイクを（マイク）ジャックにつなぐ。

表示窓に「プラグインパワー」が表示されます。
表示されない場合にはメニューで設定してください（77ページ）。

2 ▶▶I 早送り／▲またはI◀◀早戻し／▼ボタンを押して、「オン」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

プラグインパワー対応のマイクを使うと、マイクの電源は本機から供給されます。

3 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

4 録音レベルスイッチを「オート」(オート録音)または「マニュアル」(マニュアル録音)にあわせる。

5 ● 録音ボタンを押す。

録音スタンバイ状態になります。内蔵マイクと、LINE INジャックからの入力が自動的に切れ、外部マイクの音を録音します。

録音感度(ATT)スイッチで、マイク感度を切り換えることができます(40ページ)。

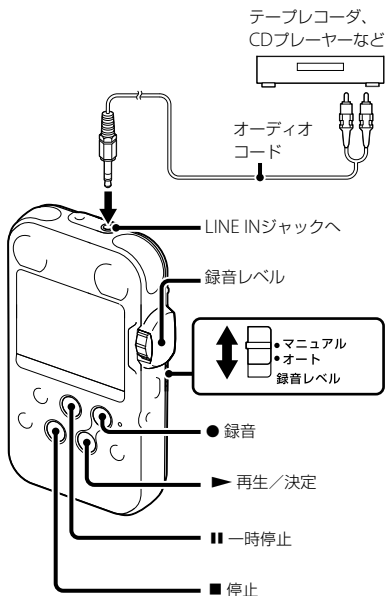
6 録音を始めるには、II一時停止ボタン、または► 再生/決定ボタンを押す。

7 手順4で「マニュアル」を選んだときは、音源の状態に合わせて、録音レベルダイヤルを調節する。

8 録音を止めるには■(停止)ボタンを押す。

お使いになれるマイク

ソニー製エレクトレットコンデンサーマイクロホン ECM-MS957(別売)を推奨します。

他の機器の音声を録音する

CDプレーヤーなど他の機器の音声を本機に録音することによって、パソコンを使わなくても、音楽ファイルを作成することができます。内蔵マイクからの入力は無効になります。

1 停止中に他の機器を本機につなぐ。

他の機器の音声出力端子(ステレオミニジャック)を別売のソニー製オーディオコードを使って、本機のLINE IN (ライン入力)ジャックにつなぎます。

2 録音レベルスイッチを「オート」(オート録音)または「マニュアル」(マニュアル録音)にあわせる。

3 ● 録音ボタンを押す。

録音スタンバイ状態になります。

4 つないだ機器で再生を始める。

5 録音を始めるには、II一時停止ボタン、または► 再生/決定ボタンを押す。

6 手順2で「マニュアル」を選んだときは、音源の状態に合わせて、録音レベルダイヤルを調節する。

7 録音を止めるには、■ 停止ボタンを押す。

お使いになれるオーディオコード(別売)

ソニー製オーディオコード、RK-G129/G129CS(別売)を推奨します。

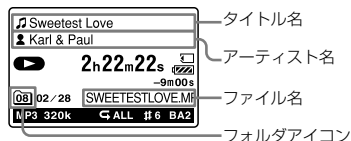
ご注意

(マイク)ジャックとLINE INジャックの両方にコードが接続されている場合は、(マイク)ジャックからの入力が優先されます。LINE INジャックを使用するときは(マイク)ジャックに接続されたマイクをはずしてください。

再生の方法を変える

再生時の表示を変える

再生時の表示を、ファイル情報表示とレベルメーター表示に切り換えることができます。

- ファイル情報表示：

本機で録音されたトラックは、下記のように表示されます。

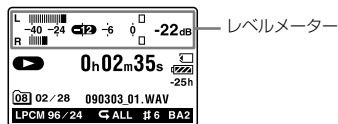
♫：タイトル名を表示：年月日_番号（例：090101_01など）

👤：アーティスト名を表示：My Recording

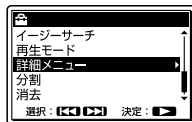
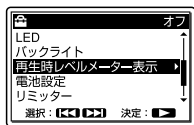
ファイル名を表示：年月日_番号
例：090101_01.MP3など）

🗀：現在選ばれているフォルダ表示：
01（FOLDER01）～10（FOLDER10）

パソコンでフォルダ名、タイトル名、アーティスト名、ファイル名を変更することができます。

- レベルメーター表示：
録音レベルを確認しながら再生することができます。

レベルメーター表示に切り換える

1 メニューボタンを押して、メニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

2 早送り／▲または ⏮ 早戻し ／▼ボタンを押して、「詳細メニュー」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

3 早送り／▲または ⏮ 早戻し／▼ ボタンを押して、「再生時レベルメーター」を選び、► 再生 ／決定ボタンを押す。

4 早送り／▲または ⏮ 早戻し／▼ ボタンを押して、「オン」を選び、 ► 再生／決定ボタン押す。

お買い上げ時は「オフ」になっています。

5 ■ 停止ボタンを押してメニューモードを終了する。

ファイル情報表示に戻すには

手順4で「オフ」を選びます。

ヘッドホンまたはスピーカーで再生する

- ヘッドホンで聞く：
  別売りのステレオヘッドホンを 🎧 /LINE OUT（ヘッドホン／ライン出力）ジャックにつないでください。スピーカーからは音が出なくなります。音量＋／−ボタンを押して音量を調節できます。
- 外部スピーカーで聞く：
  別売のキャリングケーススピーカーCKS-M10（別売）のスピーカーコードを 🎧 /LINE OUT（ヘッドホン／ライン出力）ジャックにつないでください。音量＋／−ボタンを押して音量を調節できます。
  また、本機の 🎧 /LINE OUT（ヘッドホン／ライン出力）ジャックと、他の機器のマイクジャックもしくはライン入力ジャックを、別売のソニー製オーディオコードを使ってつなぎます。接続した機器のスピーカーで本機の音声を出力して聞くことができます。

ご注意

- 🎧 /LINE OUT（ヘッドホン／ライン出力）ジャックを、ヘッドホンジャックとして使用する場合は、メニューの「Aduio Out」が「ヘッドホン」に設定されていることを確認してください(56ページ)。
- メニューの「Aduio Out」が「LINE OUT」に設定されているときは、ヘッドホンを接続しないでください。ヘッドホンからの再生音が非常に大きくなります。

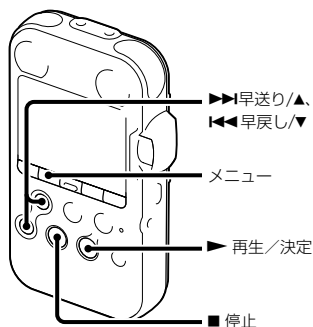
聞きたいところをすばやく探す −イージーサーチ機能

メニューの中で「イージーサーチ」を「オン」に設定しておくと、再生中に⏭早送り／▲または⏮早戻し/▼ボタンを何度か押して聞きたいところまで早送り、早戻しをして聞くことができます(74ページ)。

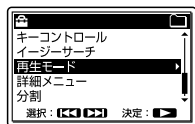
⏮早戻し/▼ボタンを1回押すごとに約3秒前、⏭早送り／▲ボタンを1回押すごとに約10秒先を再生します。楽器録音などで、聞きたいところをすばやく探すのに便利です。

最後のトラックの終わりまで再生すると

- 最後のトラックの終わりまで来ると、「TRACK END」表示が５秒点灯します。
  「TRACK END」表示が消えると、最後のトラックの頭に戻って止まります。
- 「TRACK END」の点灯中に ⏮早戻し/▼ボタンを押したままにすると、早戻しされ、離したところから再生が始まります。
- 最後のトラックが長時間のトラックの場合で、トラック中の後ろの方を探して再生したい場合は、⏭早送り／▲ボタンを押し続けていったんトラックの最後まで早送りして、「TRACK END」表示の点灯中に ⏮早戻し/▼ ボタンを押して聞きたいところまで早戻しして探すと便利です。
- 最後のトラック以外の場合は、次のトラックの頭に送ってから再生中に早戻しするとすばやく探せます。

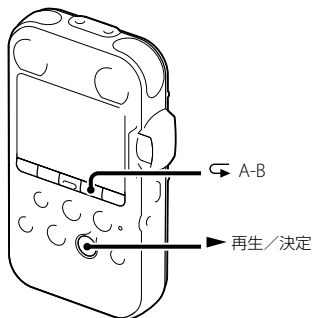
再生モードを変える

メニューで用途に応じた再生モードを選ぶことができます。

1 停止／再生時にメニューボタンを押して、メニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

2 ⏭早送り／▲または⏮早戻し/▼を押して、「再生モード」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

3 ▶▶I早送り／▲またはI◀◀早戻し/▼を押して、「1」、「🗀」、「ALL」、「⟲1」、「⟲ 🗀」または「⟲ ALL」を選び、▶再生／決定ボタンを押す。

1	1トラックを再生する。
🗀	フォルダ内のトラックを連続再生する。
ALL	全トラックを連続再生する
⟲1	1トラックをリピート再生する。
⟲🗀	フォルダ内のトラックをリピート再生する。
⟲ ALL	全トラックをリピート再生する。

4 ■停止ボタンを押してメニューモードを終了する。

リピート再生する

1トラックをリピート再生する

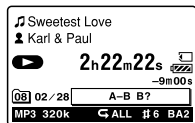
再生中に ▶ 再生／決定ボタンを長押しします。

「⟲1」が表示されます。

通常再生に戻るには、▶ 再生／決定ボタンを押します。

必要な部分だけを再生する — A-Bリピート

1 再生中に ⟲A-Bボタンを押して、A点を指定する。

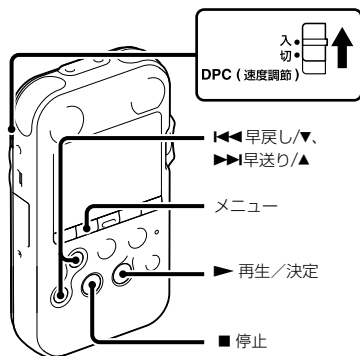
「A-B B?」が表示されます。

2 もう一度 A-Bボタンを押して、B点を指定する。

「A-B」が表示されて、指定した区間が繰り返し再生されます。

その他の操作

- A-Bリピート再生を止めて通常の再生に戻すには：
  ► 再生／決定ボタンを押します。
- A-Bリピート再生を停止するには：
  ■ 停止ボタンを押します。
- A-Bリピートの範囲を変えるには：
  A-Bリピート再生中にもう一度 A-Bボタンを押すと、手順1に戻り、新しいA点が設定されます。手順2に従ってB点を指定します。

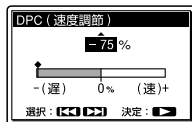
再生音を変える

再生速度を調節する — DPC(デジタル・ピッチ・コントロール)

再生速度をメニュー設定で＋100%から－75%の間で調節できます。その際、音程はデジタル処理により、自然に近いレベルで再生します。

1 DPC（速度調節）スイッチを「入」にする。

2 メニューボタンを押して、メニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

3 ⏭早送り／▲または ⏮ 早戻し／▼ ボタンを押して、「DPC（速度調節）」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

4 ⏭早送り／▲または ⏮ 早戻し／▼ ボタンを押して、再生速度を調節する。
ボタンを押すごとに、－設定（－75% ～ 0%）の間は「－5%」刻みで遅くします。＋設定（0% ～ 100%）の間は「＋10%」刻みで速くします。

5 ► 再生／決定ボタンを押して決定する。

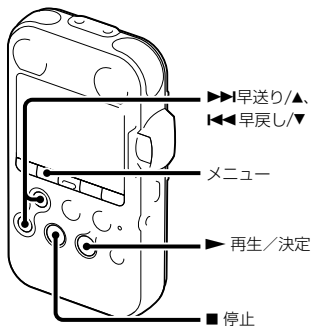
6 ■ 停止ボタンを押してメニューモードを終了する。

7 ► 再生／決定ボタンを押して再生を開始する。

設定した速度でトラックが再生されます。

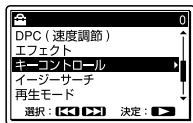
通常の再生速度に戻すには

DPC（速度調節）スイッチを「切」にします。

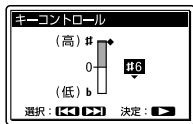
音程を調節して再生する ― キーコントロール

再生音の音程を半音ずつ上下6段階に調節して、再生することができます。伴奏に合わせて歌を練習するときなどに便利です。

1 メニューボタンを押して、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

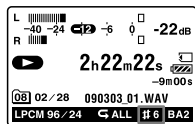
2 ►►I早送り／▲または I◄◄ 早戻し／▼ ボタンを押して、「キーコントロール」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

3 ►►I早送り／▲または I◄◄ 早戻し／▼ ボタンを押して、音程を調節する。

►►I早送り／▲：半音ずつ上げる（#1 ～ 6）

I◄◄早戻し／▼：半音ずつ下げる（♭1 ～ 6）

4 ► 再生／決定ボタンを押して決定する。

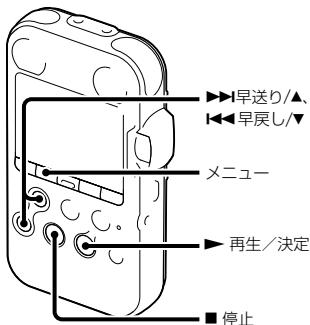
5 ■ 停止ボタンを押してメニューモードを終了する。

6 ► 再生／決定ボタンを押して再生を開始する。

設定した音程が表示されます。(#1 ～ #6、♭1 ～♭6)。

設定した
音程表示

通常の音程に戻すには

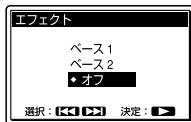
手順3で、「0」を選びます。

低音を強調する ― エフェクト

メニューで再生する音楽によって適した低音レベルを設定します。

1 停止／再生時にメニューボタンを押して、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

2 ▶▶I早送り／▲またはI◀◀早戻し/▼を押して、「エフェクト」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

3 ▶▶I早送り／▲またはI◀◀早戻し/▼を押して、お好みの音質を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

ベース1	低音が強調されます。
ベース2	低音が更に強調されます。
オフ	エフェクト機能は働きません。

4 ■ 停止ボタンを押してメニューモードを終了する。

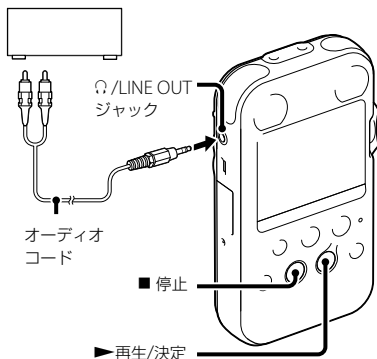
5 ► 再生／決定ボタンを押して再生を開始する。

設定したエフェクトで再生されます。

ご注意

- 内蔵スピーカーで再生する場合は、エフェクト機能は働きません。
- メニューの「Audio Out」を「LINE OUT」に設定しているときは、エフェクト機能は働きません。

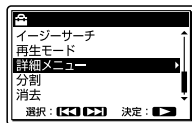
外部機器と接続して使う

本機の音声を他の機器で録音する

他の機器で本機の音声を録音できます。
録音をする前に、あらかじめためし録りをしてから、録音することをおすすめします。

1 本機の /LINE OUT（ヘッドホン／ライン出力）ジャックと他の機器のマイクジャックもしくはラインジャックを、別売のソニー製オーディオコードを使ってつなぐ。

2 停止時にメニューボタンを押して、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

3 早送り／▲ または ⏮ 早戻し ／▼ ボタンを押して、「詳細メニュー」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

4 早送り／▲ または ⏮ 早戻し／▼ ボタンを押して、「Audio Out」を選び、► 再生 ／決定ボタンを押す。

5 早送り／▲または ⏮ 早戻し／▼ ボタンを押して、「LINE OUT」を選び、► 再生 ／決定ボタンを押す。

お買い上げ時は「ヘッドホン」に設定されています。

6 ■ 停止ボタンを押してメニューモードを終了する。

7 本機の ► 再生／決定ボタンを押して再生状態にし、同時に、つないだ機器の録音ボタンを押して、録音状態にする。

本機のトラックが他の機器に録音されます。

8 録音を止めるには、本機の ■ 停止ボタンを押し、つないだ機器の停止ボタンを押す。

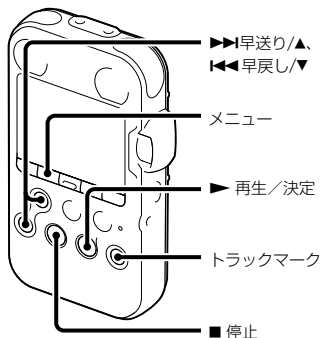
お使いになれるオーディオコード（別売）

ソニー製オーディオコード、RK-G129/G129CS（別売）を推奨します。

ご注意

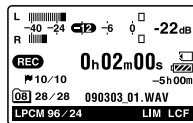
- ヘッドホンで聞く場合には、設定を「ヘッドホン」に戻してから使用してください。
- 外部機器の入力が歪んでしまう場合は、「ヘッドホン」設定に戻して音量+/−ボタンで音量を調節して再生してください。
- 「LINE OUT」に設定した場合、エフェクト設定は無効になります。
- 「LINE OUT」に設定した場合、音量+/−ボタンで音量の調節はできません。

トラックに目印を付ける

トラックマークを使う

トラックマークを付ける

再生時の頭出しや、分割位置の目安として利用するために、トラックマークを付けることができます。1つのトラックに98個まで設定できます。

録音中、再生中、一時停止中、トラックマークを付けたい場所でトラックマークボタンを押す。

(トラックマーク)表示が3回点滅し、トラックマークが設定されます。

リモコンで操作する

付属のリモコンを接続しているときは、リモコンのトラックマークボタンを押して、トラックマークを付けることができます。

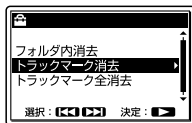
ご注意

- 本機で録音したトラックについてのみトラックマークを設定することができます。パソコンからコピーしたMP3/WMA/AAC-LC（m4a）/LPCM（WAV）ファイルには設定できません。
- トラックマークの0.5秒以内に別のトラックマークを設定することはできません。
- トラックのはじめと終わりで、トラックマークの設定ができないことがあります。
- すでに98個のトラックマークがトラックに設定されている場合、新たに設定することはできません。
- 再生中に設定をすると、再生が停止します。

トラックマークを付けた位置を探して聞くには

停止中に▶▶I 早送り／▲ または I◀◀ 早戻し／▼ ボタンを押します。(トラックマーク)表示が1回点滅したら、► 再生／決定ボタンを押します。

すべてのトラックマークの位置で分割するには

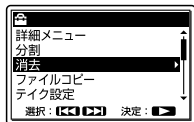
「分割」メニューから「トラックマーク全分割」を選びます。

トラックマークを消去する

1 消去したいトラックマーク位置の後で停止する。

2 メニューボタンを押して、メニューモードに入る。

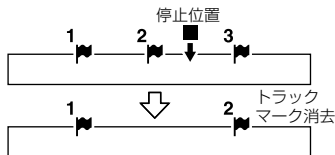
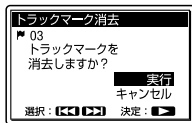
メニュー画面が表示されます。

3 ►►I 早送り／▲または I◄◄ 早戻し／▼ ボタンを押して、「消去」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

消去メニューが表示されます。

4 ►►I 早送り／▲または I◄◄ 早戻し／▼ ボタンを押して、「トラックマーク消去」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

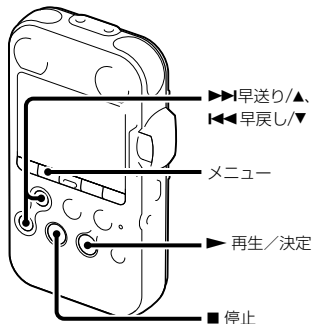
「トラックマークを消去しますか？」と表示されます。

5 ►►I 早送り／▲または I◄◄ 早戻し／▼ ボタンを押して、「実行」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

トラックマーク消去のアニメーションと「消去中...」が表示され、設定したトラックマークは消去されます。

停止位置の一つ前のトラックマークが消去される。

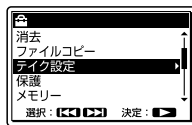
6 ■ 停止ボタンを押してメニューモードを終了する。

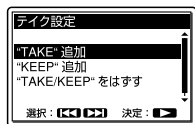
すべてのトラックマークを消去するには
トラックマークを削除したいトラックを選び、手順4で、「トラックマーク全消去」を選び、実行します。選択したトラックのすべてのトラックマークが一度に消去されます。

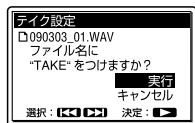
ファイル名にTAKEまたはKEEPを付ける－テイク設定

将来の選択、分類の目安として、ファイル名にTAKEやKEEPを付けることができます。いくつもの演奏から選ぶ場合など、録音時に採用の可能性が高いものに「_TAKE」、とりあえず保存しておくものに「_KEEP」を付けておくと便利です。

1 ファイル名に「_TAKE」または「_KEEP」を付けたいトラックを表示する。

2 メニューボタンを押して、メニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

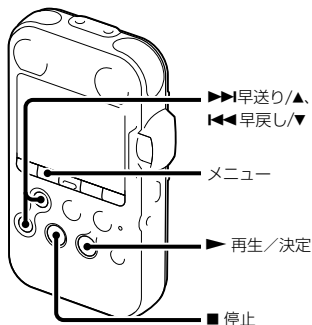
3 ▶▶I早送り／▲ またはI◀◀ 早戻し／▼を押して、「テイク設定」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

4 ▶▶I早送り／▲ またはI◀◀ 早戻し／▼を押して、「" TAKE" 追加」または「" KEEP" 追加」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。
確認画面が表示されます。

テイク設定
"TAKE" 追加
"KEEP" 追加
"TAKE/KEEP" をはずす
選択：⏮⏭　決定：▶

5 ▶▶|早送り／▲ または|◀◀早戻し／▼を押して、「実行」を選び、▶ 再生／決定ボタンを押す。

ファイル名に「_TAKE」または「_KEEP」が追加されます。

6 ■ 停止ボタンを押してメニューモードを終了する。

ファイル名から「_TAKE」または「_KEEP」をはずすには

手順4で「"TAKE/KEEP" をはずす」を選ぶ。

トラックを保護設定する

大事なトラックを間違って消去、編集することがないように保護することができます。保護されたトラックには、🔒（保護）マークが表示され、消去、編集ができない読み取り専用ファイルになります。

1 保護したいトラックを表示する。

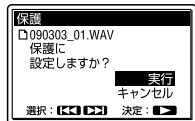
2 メニューボタンを押して、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

3 ▶▶I早送り／▲または I◀◀早戻し／▼を押して、「保護」を選び、▶ 再生／決定ボタンを押す。

確認択画面が表示されます。

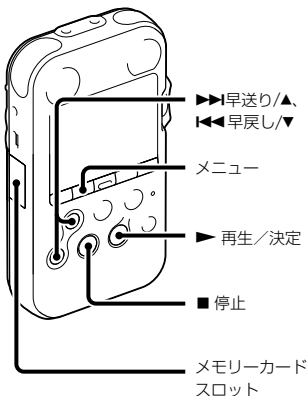
4 ▶▶I早送り／▲ または I◀◀早戻し／▼を押して、「実行」を選び、▶ 再生／決定ボタンを押す。

トラックが保護されます。保護されたトラックには🔒(保護)マークが表示されます。

5 ■ 停止ボタンを押してメニューモードを終了する。

保護を解除するには

保護設定されたトラックを選び、手順1から手順5を実行します。

フォルダ中のトラックを整理する

ファイルを別のメモリーにコピーする

内蔵メモリーとメモリーカード間でファイルのコピーができます。バックアップをとる場合などに便利です。操作を始める前に、ファイルコピーに使用するメモリーカードをメモリーカードスロットに入れてください。

ご注意

- 本機で認識しないファイルのコピーはできません。
- ファイルコピーを始める前に、電池残量を確認してください。残量が少ないとコピーできません。
- コピー先のメモリーの残量が少ない場合は、ファイルコピーができない場合があります。

1 コピーしたいトラック(ファイル)を表示する。

メモリーカードのファイルを内蔵メモリーにコピーするときは、メモリーをメモリーカードに切り換えます。(34ページ)

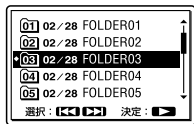
2 メニューボタンを押して、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

3 ►►I早送り／▲またはI◄◄早戻し／▼を押して、「ファイルコピー」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

「メモリーカードにコピーします」または「内蔵メモリーにコピーします」というメッセージが表示され、フォルダ選択画面が表示されます。

4 ▶▶I早送り／▲または I◀◀早戻し/▼を押して、移動先のフォルダを選び、▶ 再生／決定ボタンを押す。

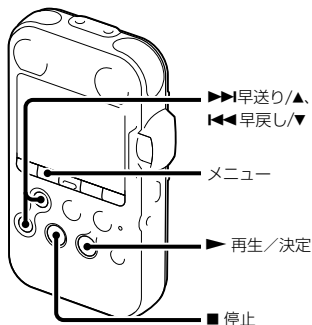
「コピー中. . .」が表示され、コピー先フォルダの最後にコピーします。ファイルは同じファイル名でコピーされます。また、アーティスト情報などの設定もそのまま保持されます。

5 ■ 停止ボタンを押してメニューモードを終了する。

途中でコピーをやめるには

手順4の前に ■ 停止ボタンを押します。

ご注意

コピーの途中でメモリーカードの抜き差しおよび電源を切らないでください。ファイルが破損する恐れがあります。

トラックを分割する

停止中にトラックを現在位置で分割して、その場所に新しいトラック番号が付けられます。また、すべてのトラックマークの位置で分割することもできます。
1トラックが長時間になったときなどに、複数のトラックに分割しておくと再生したい場所がすばやく探せ、便利です。分割したいトラックが入っているフォルダのトラック数が99件になるまで、分割できます。

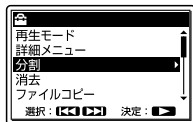
現在位置で分割する

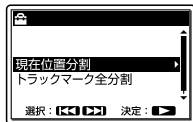
1 分割したい位置で停止する。

2 メニューボタンを押して、メニューモードに入る。

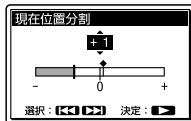
メニュー画面が表示されます。

3 ▶▶I 早送り／▲または I◀◀ 早戻し／▼ ボタンを押して、「分割」を選び、▶ 再生／決定ボタンを押す。

分割メニューが表示されます。

4 ▶▶I 早送り／▲または I◀◀ 早戻し／▼ ボタンを押して、「現在位置分割」を選び、▶ 再生／決定ボタンを押す。

分割位置から約4秒間の繰り返し再生が始まります。

5 希望する分割位置を微調節する。

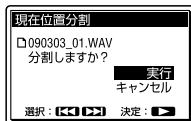
▶▶I 早送り／▲ ：後ろに移動。

I◀◀ 早戻し／▼ ：前に移動。

現在位置の前後約6秒間で約0.3秒単位での微調節が可能です。

6 ▶ 再生／決定ボタンを押す。

「分割しますか？」と表示されます。

7 ▶▶I早送り／▲ またはI◀◀早戻し/▼を押して、「実行」を選び、▶ 再生／決定ボタンを押す。

「分割中. . . 」が表示されて、分割元のトラックには「_1」が、新しいトラックには「_2」が付きます。

トラック1	トラック2		トラック3
	▲ トラック分割		
トラック1	トラック2_1	トラック2_2	トラック3

分割したトラック番号の末尾に連番(「_1」、「_2」)が振られる。

8 ■ 停止ボタンを押してメニューモードを終了する。

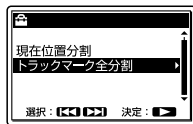
ご注意

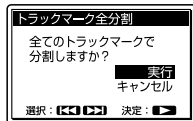
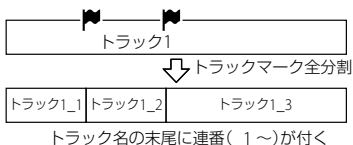
- トラックを分割するには、メモリーに一定の空き容量が必要です。詳しくは「システム上の制約」(105ページ)をご覧ください。
- トラックタイトル、アーティスト名は分割した後ろのトラックも同じになります。
- 本機で録音されたファイル以外(パソコンなどでコピーしたMP3/WMA/AAC-LC (m4a) / LPCM (WAV)ファイル)は分割できません。
- 分割したトラックは元に戻せません。
- トラックマークから前後0.5秒以内の位置で分割した場合、そのトラックマークは消去されます。
- システムの制約により、トラックのはじめと終わりでトラックの分割ができないことがあります。

すべてのトラックマーク位置で分割する

1 「現在位置で分割する」の手順1 ～手順3を行い、分割メニューを表示する。

2 ►►I 早送り／▲ または I◄◄ 早戻し／▼ ボタンを押して、「トラックマーク全分割」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

確認画面が表示されます。

3 ►►I早送り／▲ またはI◄◄早戻し/▼を押して、「実行」を選び、► 再生／決定ボタンを押す。

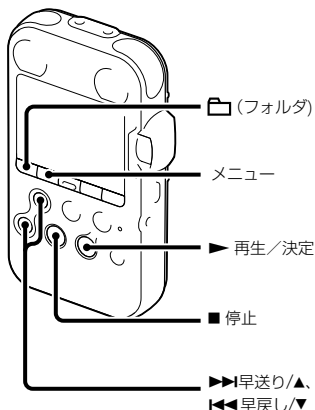
「分割中. . .」が表示されて、すべてのトラックマークが消去され、トラックマークの位置で分割します。ひとつのトラックから分割されたトラックには末尾に連番(_1 ～)が振られます。

4 ■ 停止ボタンを押してメニューモードを終了する。

トラック分割した部分を探して聞くには

分割したトラックを1トラックとしてトラック番号がついているので、トラック番号を探すときと同様に▶▶I早送り/▲ またはI◀◀早戻し/▼ ボタンを押して再生する部分を探してください。

ヒント

「トラックマーク全分割」の実行中に分割を中断したいときは、■ 停止ボタンを押すことで中断できます。分割が中断されるまでのトラックについては分割されます。

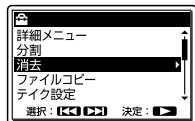
フォルダの中身を一度に消去する

ご注意

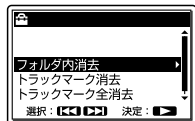
フォルダ内のトラックに保護設定がされている場合は、そのトラックは消去されません。

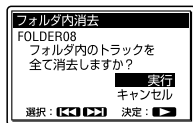
1 停止中に消去したいトラックの入っているフォルダを選ぶ。

2 メニューボタンを押して、メニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

3 ▶▶I早送り／▲ またはI◀◀早戻し/▼を押して、「消去」を選び、▶ 再生／決定ボタンを押す。

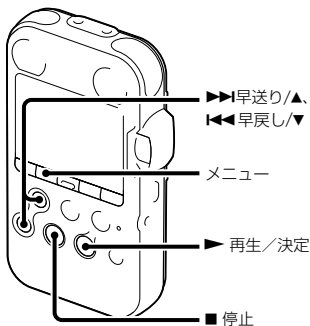
消去メニューが表示されます。

4 ▶▶I早送り／▲ またはI◀◀早戻し/▼を押して、「フォルダ内消去」を選び、▶ 再生／決定ボタンを押す。

確認画面が表示されます。

5 ▶▶I早送り／▲ またはI◀◀早戻し/▼を押して、「実行」を選び、▶ 再生／決定ボタンを押す。

「消去中. . . 」が表示され、フォルダ内の全トラックが消去されます。

6 ■ 停止ボタンを押してメニューモードを終了する。

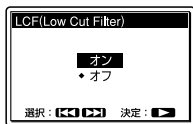
途中で消去をやめるには

手順5で「キャンセル」を選び、▶ 再生／決定ボタンを押します。

メニューの使いかた

1 メニューボタンを押して、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

2 ▶▶I早送り／▲またはI◀◀早戻し/▼を押して、設定したい項目を選び、▶再生／決定ボタンを押す。

3 ▶▶I早送り／▲またはI◀◀早戻し/▼を押して、設定し、▶ 再生／決定ボタンを押す。

4 ■ 停止ボタンまたはメニューボタンを押して、メニューモードを終了する。

ご注意

約1分間なにもしないと、メニューモードが自動的に解除され、通常の画面に戻ります。

1つ前の画面に戻るには

メニューボタンを押します。

メニューモードを中止するには

■ 停止ボタンを押します。

メニュー一覧

メニュー		設定項目	動作モード（○：設定可能 ー：設定不可）停止中	再生中	録音中
分割			○	ー	ー
	現在位置分割	実行、キャンセル	○	ー	ー
	トラックマーク全分割	実行、キャンセル	○	ー	ー
消去			○	ー	ー
	フォルダ内消去	実行、キャンセル	○	ー	ー
	トラックマーク消去	実行、キャンセル	○	ー	ー
	トラックマーク全消去	実行、キャンセル	○	ー	ー
ファイルコピー		実行、キャンセル	○	ー	ー
テイク設定		"TAKE"追加、"KEEP"追加、"TAKE/KEEP"をはずす	○	ー	ー
保護		実行、キャンセル	○	ー	ー
メモリー		内蔵メモリー、メモリーカード	○	ー	ー
録音モード		LPCM 22.05kHz/16bit、LPCM 44.10kHz/16bit、LPCM 44.10kHz/24bit、LPCM 48.00kHz/16bit、LPCM 48.00kHz/24bit、LPCM 96.00kHz/16bit、LPCM 96.00kHz/24bit MP3 44.10kHz/64kbps、MP3 44.10kHz/128kbps、MP3 44.10kHz/320kbps	○	ー	ー
LCF（Low Cut Filter）		オン、オフ	○	ー	○
DPC（速度調節）		–75 % 〜 + 100%	○	○	ー
エフェクト		ベース1、ベース2、オフ	○	○	ー
キーコントロール		#1 〜 #6、♭1 〜 ♭6	○	○	ー

メニュー	設定項目	動作モード（○：設定可能 ー：設定不可）		
		停止中	再生中	録音中
イージーサーチ	オン、オフ	○	○	ー
再生モード	1、📁、ALL、🔁1、🔁📁、🔁ALL	○	○	ー
詳細メニュー		○	○	○
フォーマット	実行、キャンセル	○	ー	ー
時計設定	_ _y_ _m_ _d _ _：_ _	○	ー	ー
LED	オン、オフ	○	ー	ー
バックライト	10秒、60秒、常時、オフ	○	ー	ー
再生時レベルメーター表示	オン、オフ	○	○	ー
電池設定	アルカリ乾電池、ニッケル水素電池	○	ー	ー
リミッター	オン、オフ	○	ー	○
プリレコーディング	オン、オフ	○	ー	ー
Audio Out	ヘッドホン、LINE OUT	○	ー	ー
プラグインパワー	オン、オフ	○	ー	ー
クロスメモリー録音	オン、オフ	○	ー	ー

メニュー	設定項目（*：初期設定）	参照ページ
分割	トラックをふたつに分けます。	64
現在位置分割	現在の位置でトラックを分割します。	
トラックマーク全分割	すべてのトラックマークの位置で分割します。	
消去	トラックやトラックマークを消去します。	28、59、67
フォルダ内消去	選んだフォルダの中のトラックをすべて消去します。消去する前に、🗀（フォルダ）ボタンを押して消去したいフォルダに切り換えてから、メニューモードにしてください。「実行」を選ぶと消去されます。	
トラックマーク消去	現在位置のトラックマークを消去します。	
トラックマーク全消去	選んだトラックのすべてのトラックマークを消去します。	
ファイルコピー	内蔵メモリーで選んだトラックをメモリーカードの選んだフォルダにコピーします。またはメモリーカードから内蔵メモリーにコピーします。 コピーする前に、コピーしたいトラックを選んでから、メニューモードにしてください。	63
テイク設定	トラックのファイル名に、「TAKE」または「KEEP」を付けます。 "TAKE"追加*：　ファイル名に「_TAKE」を付けます。 "KEEP"追加：　ファイル名に「_KEEP」を付けます。 "TAKE/KEEP"をはずす：いったん付けた「_TAKE」や「_KEEP」をファイル名から取り除きます。	60
保護	トラックを保護して、消去や分割ができないようにします。 実行：　トラックを保護します。既に保護されているトラックを選んで実行した場合は、保護を解除します。 キャンセル*：保護あるいは保護解除を実行しません。	61

メニュー	設定項目(*：初期設定)	参照ページ
メモリー	録音したトラックを保存する、または再生、編集、コピーするトラックが保存されているメモリーを選びます。 内蔵メモリー*： 内蔵メモリーを使用します。 メモリーカード： 本機のメモリーカードスロットに挿入されているメモリーカードを使用します。 **ご注意** メモリーカードを取り出すと、自動的に内蔵メモリーが選択されます。	34
録音モード	録音時のコーデック、音声の サンプリング周波数と 量子化ビット数を選択します。 LPCM 22.05kHz/16bit　LPCM（非圧縮）モード LPCM 44.10kHz/16bit* LPCM 44.10kHz/24bit LPCM 48.00kHz/16bit　↓ より高音質で録音できます。 LPCM 48.00kHz/24bit LPCM 96.00kHz/16bit LPCM 96.00kHz/24bit MP3 44.10kHz/64kbps*　MP3（圧縮）モード MP3 44.10kHz/128kbps MP3 44.10kHz/320kbps　↓ より高音質で録音できます。 （*長時間録音用） **サンプリング周波数と量子化ビット数とは？** • サンプリング周波数とは、アナログ信号からデジタル信号への1秒間の変換回数を表す数値です。数値が高いほど音質は向上し、データ量が増えます。 • 量子化ビット数とは、1秒間の音声に与えるデータ容量を表す数値です。数値が高いほど、音質が向上します。	39

メニュー	設定項目（*：初期設定）	参照ページ
LCF（Low Cut Filter）	LCF（Low Cut Filter）機能を設定して、低い周波数の音をカットし、空調音などのノイズや風切り音を軽減することで音声をよりクリアに録音できます。 オン： LCF機能を設定します。 オフ*： LCF機能を解除します。	41
DPC（速度調節）	DPC（Digital Pitch Control）を設定します。 DPC（速度調節）スイッチを「入」にした場合に有効です。再生速度を、＋100%から−75%の範囲で調節をします。−設定では「−5%」刻み、＋設定では「＋10%」刻みで設定されます。（−30%*）	52
エフェクト：	再生する音楽によって適した低音効果を設定します。 ベース1： 低音が強調されます。 ベース2： 低音が更に強調されます。 オフ*： エフェクト機能は働きません。 **ご注意** • 内蔵スピーカーで再生しているときにはエフェクト機能は働きません。 • 「Audio Out」を「LINE OUT」に設定しているときは、エフェクト機能は働きません。	54
キーコントロール	音程を半音ずつ上下6段階（#1～#6、♭1～♭6）で調節します。（0*）	53
イージーサーチ	イージーサーチを設定します。 オン： 再生中、▶▶I早送り／▲ボタンを押すと、約10秒進め、I◀◀早戻し／▼ボタンを押すと、約3秒戻ります。会議録音などで、聞きたいところをすばやく探すのに便利です。 オフ*：イージーサーチ機能が働きません。I◀◀早戻し／▼または▶▶I早送り／▲ボタンを押すと、トラックを送り／戻しします。	48

メニュー	設定項目(*:初期設定)	参照ページ
再生モード	再生モードを設定します。 1: 1トラックを再生する。 📁*: フォルダ内のトラックを連続再生する。 ALL: 全トラックを連続再生する ⮎1: 1トラックをリピート再生する。 ⮎📁: フォルダ内のトラックをリピート再生する。 ⮎ALL: 全トラックをリピート再生する。	49
詳細メニュー		
フォーマット	「メモリー」で選んでいる使用中のメモリー(内蔵メモリーまたはメモリーカード)を初期化します。メモリー内のすべてのデータを削除し、フォルダ構成を初期状態に戻します。 実行: 「フォーマット中...」が表示され、初期化します。 キャンセル*: 初期化しません。 **ご注意** • 本機で使うメモリーカードはパソコンでフォーマットしないでください。必ず本機で行ってください。 • 一度消去した内容はもとに戻すことはできません。	–
時計設定	「年」「月」「日」「時」「分」をそれぞれ設定して時計を合わせます。 (09y01m01d* 0:00 *) **時間表示** 時間は24時間で表示されます。 0:00=真夜中、12:00=正午	16
LED	アクセスランプ、ピークレベルL/R(–12dB/OVER)ランプ、● 録音、► 再生/決定,、II一時停止ランプの点灯、消灯を設定します。 オン*: 動作中はランプが点灯または点滅します。 オフ: 動作中もランプは点灯/点滅しません。 **ご注意** 本機をパソコンに接続しているときは、「オフ」に設定されていてもアクセスランプは点灯/点滅します。	–

メニュー	設定項目(*:初期設定)	参照ページ
詳細メニュー(つづき)		
バックライト	バックライトの点灯、消灯を設定します。 10秒*: 操作をするとバックライトが10秒間点灯します。 60秒: 操作をするとバックライトが60秒間点灯します。 常時: バックライトは常に点灯します。 オフ: バックライトが点灯しません。 **ご注意** 「常時」に設定すると、電池の寿命が早くなります。電池を使用する場合は、「常時」以外の設定をおすすめします。	−
再生時レベルメーター表示	再生時、レベルメーターを表示するかどうかを設定します。 オン: レベルメーターを表示します。 オフ*: トラックのタイトル名とアーティスト情報を表示します。	47
電池設定	本機で使用する電池の種類を設定します。 アルカリ乾電池*: アルカリ乾電池をお使いになるときに選びます。 ニッケル水素電池: 別売の充電式ニッケル水素電池をお使いになるときに選びます。	−
リミッター	マニュアル録音時に突発的な大音量が入力した場合、音のひずみを防ぐために入力を自動的に調節します。 オン: リミッター機能を設定します。 オフ*: リミッター機能を解除します。 **ご注意** 録音レベルスイッチが「マニュアル」に設定されているときに有効です。 **リミッター回路について** • リミッター回路とは、突然大きな音が入力された場合でも、信号レベルを最大入力レベルの範囲内で最適なレベルに調節し、ノイズを抑えるための回路です。 • 本機のリミッター回路は、12dB以上の音声入力には対応していません。12dB以上過入力されると、音が歪むことがあります。	42

メニュー	設定項目（*：初期設定）	参照ページ
プリレコーディング	録音を開始する前の約5秒分の音をメモリーに保存することによって、● 録音を押したあと、► 再生／決定ボタンを押す約5秒前の音から録音を開始することができます（プリレコーディング機能）。 オン：　プリレコーディング機能を設定します。 オフ*：プリレコーディング機能を解除します。	32
Audio Out	本機の ♎/LINE OUT（ヘッドホン／ライン出力）ジャックの出力を設定します。 ヘッドホン*：　♎/LINE OUT（ヘッドホン／ライン出力）ジャックをヘッドホンジャックとして使用します。接続したヘッドホンまたは外部スピーカーを使って本機の再生音を聞くときに選びます。 LINE OUT：　♎/LINE OUT（ヘッドホン／ライン出力）ジャックをライン出力ジャックとして使用します。テープレコーダーなどで、本機の再生音を録音する場合などに選びます。 **ご注意** 「LINE OUT」に設定されているときは、ヘッドホンを接続しないでください。ヘッドホンからの再生音が非常に大きくなります。 また、音量+/－ボタンで、音量の調節はできません。	56
プラグインパワー	本機の（マイク）ジャックにプラグインパワー対応のマイクロホンを接続した場合、マイクロホンの電源を本機から供給するプラグインパワー機能を有効、無効に設定します。 オン*：プラグインパワー機能を設定します。 オフ：　プラグインパワー機能を解除します。	44
クロスメモリー録音	「メモリー」で選択しているメモリーの残量が録音中になくなった場合に、もう一方のメモリーに自動的に切り換えて録音を継続する機能を設定します。続きの録音は新しいトラックとして保存されます。 オン：　クロスメモリー機能を設定します。 オフ*：　クロスメモリー機能を解除します。現在選択されているメモリーの残量がなくなると録音を停止します。	37

パソコンにつないで使う

本機とパソコンを接続すると、パソコン側で本機を認識することができ、次のようなことができます。

トラックを本機からパソコンにコピーして保存する（82ページ）

本機にあるトラックやフォルダをパソコンにコピーして保存することができます。

音楽ファイルをパソコンから本機にコピーして再生する（83ページ）

USBケーブルで本機をパソコンに接続して、パソコンに保存してあるWAV/MP3/WMA/AAC-LC（m4a）のファイルをドラッグアンドドロップ操作でコピーして再生することができます。

USBデータストレージとして使う（85ページ）

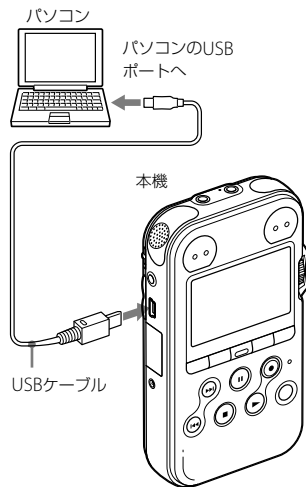
パソコンに保存されている画像やテキストファイルなどを一時的に保存することができます。

パソコンに必要なシステム構成

「主な仕様」の「必要なシステム構成」（90ページ）をご覧ください。

Windows® 2000 Professionalをお使いの場合

本機に収録されているファイル「SonyRecorder_Driver.exe」を使ってドライバをインストールしてください。

本機をパソコンに接続する

本機とパソコンでトラックをやり取りするためには、本機をパソコンに接続します。

1 本機の•⟷(USB)端子とパソコンのUSBポートを、付属のUSBケーブルで最後まで挿し込み接続する。

2 正しく認識されているかを確認する。

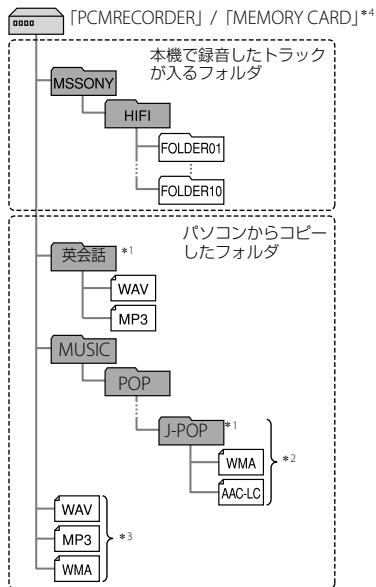
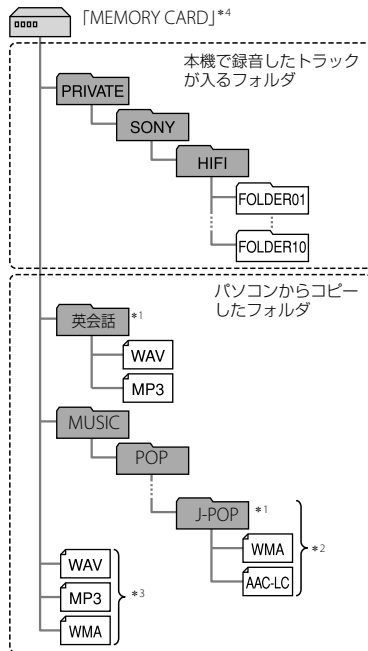
Windowsでは、「マイコンピュータ」を開き、「PCMRECORDER」が新しく認識されているかを確認してください。
Macintoshでは、デスクトップに「PCM RECORDER」という名前のドライブが表示されているかを確認してください。

接続している間は本機の表示窓に「接続中」の表示が出ています。

ご注意

- 1台のパソコンに2台以上のUSB機器を接続した場合の動作保証はいたしかねます。
- 付属のUSBケーブル以外のUSBハブ、またはUSB延長ケーブルをご使用の場合の動作保証はいたしかねます。必ず付属のUSBケーブルのみで接続してください。
- 同時にお使いになるUSB機器によっては、正常に動作しないことがあります。
- パソコン接続時は必ず電池を挿入してからお使いください。
- パソコンとは必要なときだけ接続することをおすすめします。パソコンを使って操作しないときは、本機ははずしておいてください。

フォルダとファイルの構成

内蔵メモリー／M2™の場合

microSDカードの場合

本機をパソコンに接続すると、フォルダやファイルの構成をパソコンの画面で見ることができます。パソコンの画面で見ると前ページのように表示されます。
フォルダの違いは、本機の表示窓に表示されるフォルダ表示で区別できます。

- 📁：本機で録音したトラックが入るフォルダ（お買い上げ時に作成されています。）
- 📁：パソコンからコピーしたフォルダ（パソコンからコピーしたときに表示されます。）

ご注意

本機で録音可能なフォルダは内蔵メモリー、メモリーカードそれぞれ最大10フォルダ（FOLDER01 ～ FOLDER10）です。

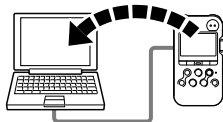
＊[1] 音楽ファイルが保存されたフォルダ名は本機でも同じフォルダ名として表示されます。管理しやすいフォルダ名にしておくと便利です。（図は、フォルダ名称の例です。）
＊[2] 音楽ファイルを認識できるのは、本機にコピーしたフォルダの8階層目までとなります。
＊[3] 音楽ファイルを単独でコピーすると「未分類」のフォルダとして扱われます。
＊[4] 内蔵メモリーの場合は「PCMRECORDER」と、メモリーカードの場合は「MEMORY CARD」とボリュームラベルが表示されます。

ヒント

- パソコンでフォルダ名、タイトル名、アーティスト名、ファイル名を変更することができます。
- 本機では、音楽ファイルに登録されているタイトル名やアーティスト名などの情報を表示することができますので、音楽ファイルを作成するソフトやパソコンで情報を入力しておくと便利です。

ご注意

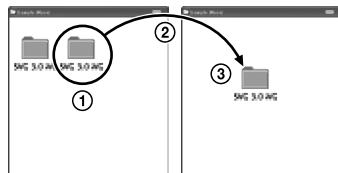
- FATファイルシステム制約により、パソコンで「MEMORY CARD」を開いてすぐの場所（ルートディレクトリ）には511個を超えるフォルダやファイルをコピーすることはできません。
- ID3-TAG情報にタイトル名またはアーティスト名が登録されていない場合は、「Unknown」と表示されます。

トラックを本機からパソコンにコピーして保存する

本機にあるトラックやフォルダをパソコンにコピーして保存することができます。
CDを作成したい場合は、本機に付属のアプリケーションソフトウェア「Sound Forge Audio Studio LE」をお使いください。
詳しくは別紙「Sound Forge Audio Studio LEのご案内」をご覧ください。

1 本機をパソコンに接続する（79ページ）。

2 コピーしたいトラックやフォルダをパソコンにコピーする。

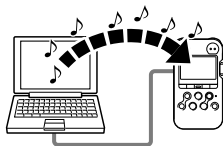
「PCMRECORDER」または「MEMORY CARD」に入っているトラックが入っているフォルダをパソコンのローカルディスクにドラッグアンドドロップします。

フォルダをコピーする（ドラッグアンドドロップ）

①コピーしたいフォルダをクリックしたまま、
②保存先まで移動（ドラッグ）して、
③はなす（ドロップ）

3 本機をパソコンから取りはずす（86ページ）。

ご注意

データをパソコンに転送中にUSBケーブルを取りはずすと、データが破損する場合があります。取りはずし方は、86ページをごらんください。

音楽ファイルを本機にコピーして再生する

パソコンにある音楽(語学)ファイル(LPCM/MP3/WMA/AAC-LC*)を本機にコピーして再生することができます。
お使いのパソコンにインストールされているプレーヤーソフトなどでLPCM/MP3/WMA/AAC-LCファイルを作成することができます。

* 本機で再生可能なファイル形式については、「主な仕様」(90ページ)をご覧ください。

1 本機をパソコンに接続する(79ページ)。

2 パソコン内の音楽ファイルが入っているフォルダを本機にコピーする。
WindowsではExplorerを使って、MacintoshではFinderを使って、音楽ファイルが入っているフォルダを「PCMRECORDER」または「MEMORY CARD」にドラッグアンドドロップします。
本機では最大500個のフォルダまで認識できます。1個のフォルダには最大99件のファイルを、またフォルダ全体では最大5,000件のファイルまで入れることができます。

3 本機をパソコンからとりはずす。

4 本機の🗀(フォルダ)ボタンを押す。

5 ▶▶I早送り/▲ または I◀◀早戻し/▼ボタンを押して再生したいファイルが保存されているフォルダを選び、▶再生/決定ボタンを押す。

6 ▶▶I早送り/▲ または I◀◀早戻し/▼ボタンを押して再生したいファイルを選ぶ。

7 ▶ 再生/決定ボタンを押す。

8 再生を止めるには■ボタンを押す。

パソコンにある音楽ファイルを本機にコピーして再生する場合の最大再生時間（曲数*）は下記のようになります。

48 kbps	128 kbps	256 kbps
178時間55分（2,683曲）	67時間（1,005曲）	33時間30分（502曲）

* 1曲4分をコピーした場合

ご注意

- パソコンからコピーした音楽ファイルでは、再生はできますが、ファイル（トラック）の分割、トラックマーク設定ができない場合があります。
- パソコンを使って、本機に転送した音楽ファイルは、システムの制約により転送順にならないことがあります。パソコンにある音楽ファイルを1ファイルずつ本機にコピーすると、表示、再生の順番を転送順に合わせることができます。
- 取りはずすときは「本機をパソコンから取りはずす」（86ページ）をご覧ください。
- パソコンなどからコピーされたWAVファイルはfs/bit（サンプリング周波数/量子化ビット数）情報は表示されません。
- MP3、WMA、AAC-LC（m4a）ファイルは、ビットレート情報は表示されません。

ヒント

パソコンでフォルダ名、タイトル名、アーティスト名、ファイル名を変更することができます。

音楽再生をより楽しむために

- 再生方法を変える（再生モード）
  メニューで用途に応じて再生モード（1トラック再生、フォルダ内のトラック連続再生、全トラック連続再生、1トラックリピート再生、フォルダ内のトラックリピート再生、全トラックリピート再生）を選ぶことができます。
- 再生速度を調節する（DPC）
  再生速度を＋100%から－75%の間で調節できます。
- 音質を切り替える（キーコントロール、エフェクト）
  メニューで再生する音楽によって低音を強調する効果（エフェクト）を設定したり、キーコントロールで音程を設定します。

USBメモリとして利用する－データストレージ機能

本機とパソコンをUSB経由で接続すると、パソコン上にある本機で録音したファイル以外の画像やテキストなどのファイルを本機に一時保存できます。
USBメモリとして使うためには、一定の条件を満たしたシステム構成のパソコンが必要です。
OSの条件については、「必要なシステム構成」（90ページ）をご覧ください。

ご注意

本機でフォーマットすると、本機に一時保存したファイルは全て消え、元に戻すことはできなくなります。

本機をパソコンから取りはずす

必ず下記の手順で取りはずしてください。この手順で行わないと、データが破損するおそれがあります。

1 本機が停止状態であることを確認する。

2 パソコンで以下の操作を行う。

Windowsの場合：
パソコンのデスクトップ下部で、以下のアイコンを左クリックしてください。

→[USB大容量記憶装置を安全に取りはずします]を左クリックしてください。
アイコンはOSの種類により見た目が異なる場合があります。

Macintoshの場合：
デスクトップの「PCMRECORDER」のアイコンをドラッグして、「ゴミ箱」アイコンの上にドロップしてください。

パソコンから取りはずす方法について詳しくは、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。

3 パソコンからUSBケーブルを取りはずす。

使用上のご注意

ノイズについて

- 録音中や再生中に本機を電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。
- 録音中に操作ボタンを押すなど、本機に触れたり、本機を手に持つことで操作音やタッチノイズが録音されることがあります。付属のリモコンを使用することで、本体に触れることなく録音することが可能です。
- 扇風機、エアコン、空気清浄機、パソコンのファン等のノイズや風切り音も録音されます。LCF（Low Cut Filter）機能で低周波ノイズや風切り音を軽減させることが可能です（41ページ）。また、ウィンドスクリーンAD-PCM2（別売）をお使いになることにより、風切り音を更に軽減することができます。

ご使用場所について

運転中のご使用は危険ですのでおやめください。

内蔵マイクロホンについて

本機の内蔵マイクロホンは高性能エレクトレットコンデンサーマイクロホンです。マイクロホン部に強い風を吹きかけたり、水をかけたりしないでください。

取り扱いについて

- 落としたり、強いショックを与えたりしないでください。故障の原因になります。
- 次のような場所には置かないでください。
  - 温度が非常に高いところ（60℃以上）。
  - 直射日光のあたる場所や暖房器具の近く。
  - 窓を閉めきった自動車内（特に夏期）。
  - 風呂場など湿気の多いところ。
  - ほこりの多いところ。
- 水がかからないようご注意ください。本機は防水仕様ではありません。特に以下の場合ご注意ください。
  - 洗面所などで本機をポケットに入れての使用。
    身体をかがめたときなどに、落として水濡れの原因になる場合があります。
  - 雨や雪、湿度の多い場所での使用。
  - 汗をかく状況での使用。
    濡れた手で触ったり、汗をかいた衣服のポケットに本機を入れると、水濡れの原因になることがあります。
- 空気が乾燥する時期にヘッドホンを使用すると、耳にピリピリと痛みを感じることがありますが、ヘッドホンの故障ではなく、人体に蓄積された静電気によるものです。静電気の発生しにくい天然素材の衣服を身に着けていただくことにより、軽減されます。

万一故障した場合は、内部を開けずにお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

お手入れ

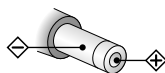
本体表面が汚れたときは、水気を含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナーやベンジン、アルコール類は表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や、本機の故障などによるデータの消滅や破損にそなえ、大切な録音内容は、必ずパソコンなどにバックアップしてください。

ACパワーアダプターについて

- この製品には、付属のACパワーアダプター（極性統一形プラグ・JEITA規格）をご使用ください。上記以外の製品を使用すると、故障の原因になることがあります。

- ACパワーアダプターは容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。
- ACパワーアダプターをご使用時は、以下の点にご注意ください。
  - ACパワーアダプターを本棚や組み込み式キャビネットなどの狭い場所に置かないでください。
  - 火災や感電の危険を避けるために、水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、ACパワーアダプターの上に花瓶など水の入ったものを置かないでください。

メモリーカードのご使用について

ご注意

- フォーマット（初期化）は必ず本機で行ってください。Windowsなどで初期化すると、本機で扱えないメディアとなる場合があります。
- すでにデータが書き込まれているメモリーカードをフォーマットすると、そのデータが消去されてしまいます。誤って大切なデータを消去することがないよう、ご注意ください。
- メモリーカードは、小さいお子様の手の届くところに置かないようにしてください。 誤って飲み込む恐れがあります。
- 録音/再生中は、メモリーカードを抜き差ししないでください。故障の原因となります。
- 表示窓に「アクセス中...」と表示されている間や、アクセスランプがオレンジに点滅している間はメモリーカードを取り出さないでください。データが破損する恐れがあります。

• 対応仕様のメモリーカードでも、すべてのメモリーカードでの動作を保証するものではありません。
• M2™については、ソニー製M2™以外は本機で動作確認を行っていないため、使用した場合、不具合が発生する可能性があります。M2™の対応表については、http://www.sony.jp/products/ms/compatible/icrecorder.html をご覧ください。
• "MagicGate™"(マジックゲート)は、ソニーが開発した、著作権を保護する技術の総称です。本機は、MagicGate™によるデータ録音、再生には対応していません。
• 本機はパラレルデータ転送には対応していません。
• ROMタイプのメモリーカード、誤消去防書込み禁止のメモリーカードは、再生のみで、録音や編集はできません。
• SonicStageによって、すべての"メモリースティック™"にグループが作られますが、対応機器以外ではグループ機能をご使用になれません。
• 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  – 読み込み中、書き込み中にメモリーカードを取り出したり、機器の電源を切った場合
  – 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
• お客様の記録したデータの破損(消滅)については、弊社は一切その責任を負いかねますのでご容赦ください。
• 大切なデータは、バックアップを取っておくことをおすすめします。
• 端子部には手や金属などを触れないでください。
• 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
• 分解したり、改造したりしないでください。
• 水にぬらさないでください。
• 以下のような場所でのご使用はしないでください。
  –使用条件範囲以外の場所(炎天下や夏場の窓を閉め切った車の中、直射日光のあたる場所、熱器具の近くなど)
  –湿気の多い場所や腐食性のものがある場所
• ご使用の際は正しい挿入方向をご確認ください。

主な仕様

必要なシステム構成

OS
- Windows Vista® Ultimate Service Pack1以降
- Windows Vista® Business Service Pack1以降
- Windows Vista® Home Premium Service Pack1以降
- Windows Vista® Home Basic Service Pack1以降
- Windows® XP Media Center Edition 2005 Service Pack3以降
- Windows® XP Media Center Edition 2004 Service Pack3以降
- Windows® XP Professional Service Pack3以降
- Windows® XP Home Edition Service Pack3以降
- Windows® 2000 Professional Service Pack4以降
- Mac OS X（v10.2.8-v10.5）

標準インストール（日本語版のみ）

- サウンドボード：上記に記載のOSに対応したもの
- USBポート

ご注意
- 上記以外のOSは動作保証いたしません。（Windows® 98/Linuxなど）
- Windows® XPについては、64 bit版のOSは動作保証いたしません。
- 最新の対応OSについては、ICレコーダーカスタマーサポートページ http://www.sony.co.jp/ic-rec-support をご覧ください。
- 推奨環境すべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。また、自作パソコンなどへお客様自身がインストールしたものや、NEC PC-98シリーズとその互換機、アップグレードしたもの、マルチブート環境、マルチモニタ環境での動作保証はいたしません。

Windows® 2000 Professionalをお使いの場合
本機に収録されているファイル「SonyRecorder_Driver.exe」を使ってドライバをインストールしてください。

本体の主な仕様

録音方式
内蔵フラッシュメモリー 4 GB使用、
　リニアPCM/MP3　ステレオ録音

容量（ユーザー使用可能領域）
内蔵メモリー：
　4 GB（約3.60 GB = 3,865,470,566 Byte）
メモリー容量の一部をデータ管理領域として使用しています。

周波数範囲
LPCM
96.00 kHz：20 Hz ～ 40,000 Hz
（0 dB、-2 dB）
48.00 kHz：20 Hz ～ 22,000 Hz
（0 dB、-2 dB）
44.10 kHz：20 Hz ～ 20,000 Hz
（0 dB、-2 dB）
22.05 kHz：20 Hz ～ 10,000 Hz
（0 dB、-3.5 dB）
MP3
320 kbps：50 Hz ～ 15,000 Hz
（0 dB、-3 dB）
128 kbps：50 Hz ～ 15,000 Hz
（0 dB、-3 dB）
64 kbps：50 Hz ～ 13,000 Hz
（0 dB、-3 dB）

録音モード
39ページをご覧ください。

MP3対応ビットレート、サンプリング周波数[*1]
ビットレート：32 kbps ～ 320 kbps、
可変ビットレート（VBR）対応
サンプリング周波数：
16 kHz/22.05 kHz/24 kHz/32 kHz/
44.1 kHz/48 kHz
拡張子：.mp3

*1 すべてのエンコーダーに対応しているわけではありません。

WMA対応ビットレート、サンプリング周波数[*2]
ビットレート：32 kbps ～ 192 kbps、
可変ビットレート（VBR）対応
サンプリング周波数：44.1 kHz
拡張子：.wma

*2 WMA Ver.9には準拠していますが、MBR（Multi Bit Rate）、Lossless、Professional、Voiceには対応しておりません。著作権保護されたファイルは再生できません。
すべてのエンコーダーに対応しているわけではありません。

AAC-LC（m4a）対応ビットレート、サンプリング周波数[*3]
ビットレート：16 kbps ～ 320 kbps、
可変ビットレート（VBR）対応
サンプリング周波数：
11.025 kHz/12 kHz/16 kHz/22.05 kHz/
24 kHz/32 kHz/44.1 kHz/48 kHz
拡張子：.m4a

*3 著作権保護されたファイルは再生できません。
すべてのAACエンコーダーに対応しているわけではありません。

信号対雑音比（S/N比）（LPCM録音再生時 LINE IN入力 － LINE OUT出力時）
87 dB（1 kHz IHF-A 24 bit時）

スピーカー
直径16 mm

入・出力端子
マイク入力（ステレオミニジャック）
プラグインパワー対応
入力インピーダンス：3.9 kΩ
規定入力：2.5 mV
最小入力レベル：0.9 mV
LINE INジャック（ステレオミニジャック）
入力インピーダンス：22 kΩ
規定入力：2 V
最小入力レベル：500 mV

ヘッドホン/LINE OUT（ステレオミニジャック）
ヘッドホンモード
負荷インピーダンス：16 Ω
出力：20 mW + 20 mW
LINE OUTモード
負荷インピーダンス：22 kΩ
規定出力レベル：1 Vrms

USB端子（USB mini-B端子）
High-Speed USB対応
リモコンジャック
DC IN 3Vジャック（極性統一型プラグ）
メモリースティック マイクロ™（M2™）／microSD対応スロット

再生スピード調節（DPC）
＋100%〜－75%（LPCM/MP3/WMA/AAC-LC）

実用最大出力
250 mW

電源
DC 3.0 V　ACパワーアダプター（付属）使用時
DC 3.0 V　単3形アルカリ乾電池（付属）2本
DC 2.4 V　単3形充電式ニッケル水素電池（別売）2本

動作温度
5℃〜35℃

最大外形寸法
約62.0 mm×114.0 mm×21.8 mm（幅／高さ／奥行き）（最大突起部含まず）（JEITA*4）

質量
約187 g（単3形アルカリ乾電池2本含む）（JEITA*4）

*4 電子産業技術協会（JEITA）の測定方法に基づいています。

付属品
10ページ参照

別売アクセサリー
メモリースティック マイクロ™（M2™）MS-A1GD
ステレオヘッドホン MDR-EX300SL/MDR-EX500SL/MDR-Z300/MDR-Z900HD
オーディオコード RK-G129/RK-G129CS
エレクトレットコンデンサーマイクロホン ECM-MS957
充電式ニッケル水素充電池単3形 NH-AA-2BKA
ニッケル水素電池専用充電器 BCG-34HRES
キャリングケーススピーカー　CKS-M10
ウィンドスクリーン　AD-PCM2
三脚 VCT-PCM1

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

最大録音時間*5*6

最大録音可能時間は、全フォルダ合わせて下記のとおりです。なお、時間はすべて5分単位の概数です。

録音モード	内蔵メモリー	メモリーカード				
	4 GB	1 GB	2 GB	4 GB	8 GB	16 GB
LPCM 96.00 KHz/24 bit	1時間50分	25分	55分	1時間55分	3時間50分	7時間45分
LPCM 96.00KHz/16bit	2時間45分	40分	1時間25分	2時間50分	5時間45分	11時間35分
LPCM 48.00 KHz/24 bit	3時間40分	50分	1時間55分	3時間50分	7時間40分	15時間30分
LPCM 48.00 KHz/16 bit	5時間30分	1時間20分	2時間50分	5時間45分	11時間35分	23時間15分
LPCM 44.10 KHz/24 bit	4時間	55分	2時間5分	4時間10分	8時間25分	16時間50分
LPCM 44.10 KHz/16 bit	6時間	1時間25分	3時間5分	6時間15分	12時間35分	25時間20分
LPCM 22.05 KHz/16 bit	12時間5分	2時間55分	6時間15分	12時間35分	25時間20分	50時間40分
MP3 44.10 KHz/ 320 kbps	26時間45分	6時間35分	13時間50分	27時間50分	55時間50分	111時間55分
MP3 44.10 KHz/ 128 kbps	67時間5分	16時間30分	34時間45分	69時間40分	139時間45分	279時間45分
MP3 44.10 KHz/64 kbps	134時間10分	33時間	69時間35分	139時間30分	279時間30分	559時間35分

*5 連続録音の場合は、途中電池交換が必要になります。詳しくは乾電池の持続時間（次ページ）をご確認ください。

*6 録音モードを混在して録音した場合、最大録音時間は任意に変化します。

電池持続時間

乾電池の持続時間[*1]（ソニーアルカリ乾電池LR6（SG）を連続使用時）

録音モード	録音時（モニターなし）	録音時（モニターあり）	スピーカー再生時[*2]	ヘッドホン再生時
LPCM 96.00 KHz/24 bit	28時間	19時間	19時間	22時間
LPCM 96.00 KHz/16 bit	28時間	19時間	19時間	24時間
LPCM 48.00 KHz/24 bit	39時間	23時間	23時間	27時間
LPCM 48.00 KHz/16 bit	39時間	24時間	24時間	27時間
LPCM 44.10 KHz/24 bit	41時間	24時間	24時間	28時間
LPCM 44.10 KHz/16 bit	46時間	24時間	24時間	30時間
LPCM 22.05 KHz/16 bit	45時間	24時間	24時間	30時間
MP3 44.10 KHz/320 kbps	40時間	26時間	24時間	28時間
MP3 44.10 KHz/128 kbps	40時間	26時間	24時間	28時間
MP3 44.10 KHz/64 kbps	43時間	26時間	24時間	28時間

充電式電池の持続時間[*1]（ソニー充電式ニッケル水素電池NH-AAを連続使用時）

録音モード	録音時(モニターなし)	録音時(モニターあり)	スピーカー再生時[*2]	ヘッドホン再生時
LPCM 96.00 KHz/24 bit	28時間	19時間	19時間	21時間
LPCM 96.00 KHz/16 bit	28時間	19時間	19時間	23時間
LPCM 48.00 KHz/24 bit	38時間	22時間	22時間	26時間
LPCM 48.00 KHz/16 bit	39時間	23時間	23時間	26時間
LPCM 44.10 KHz/24 bit	38時間	23時間	23時間	27時間
LPCM 44.10 KHz/16 bit	44時間	23時間	23時間	29時間
LPCM 22.05 KHz/16 bit	41時間	23時間	23時間	29時間
MP3 44.10 KHz/320 kbps	32時間	26時間	24時間	28時間
MP3 44.10 KHz/128 kbps	37時間	26時間	24時間	28時間
MP3 44.10 KHz/64 kbps	38時間	26時間	24時間	28時間

*1 電池持続時間は当社試験法によるものです。使用条件によって短くなる場合があります。

*2 音量レベルを16に設定し、内蔵スピーカーで音楽を再生した場合。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

ソニーの相談窓口（裏表紙）、お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではリニアPCMレコーダーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店またはサービス窓口にご相談ください。

故障かな?と思ったら

修理を依頼される前に、もう一度下記項目をチェックしてみてください。それでも解決しない場合、ご不明な点は、裏表紙に記載のリニアPCMレコーダー･カスタマーサポートページをご覧いただくか、ソニーの相談窓口(裏表紙)までお問い合わせください。
なお、保証書とアフターサービスについては、96ページをご参照願います。
修理に出すと、録音した内容が消えることがあります。ご了承ください。

こんなときは

症状	原因/処置
電源が切れない。	• 停止中に電源/ホールドスイッチを「電源」の方向に2秒以上スライドさせる(15ページ)。
電源が入らない。	• 電源がオフになっている。 → 電源/ホールドスイッチを「電源」の方向に1秒以上スライドさせる(15ページ)。 • 電池の ⊕ と ⊖ の向きが正しくない(13ページ)。
液晶表示が消えない。 表示が2重に見える。	• 保護シートが付いていませんか? → フィルムを剥がしてお使いください。
操作ボタンを押しても動作しない。	• 電池が消耗している。 • 電源がオフになっている。 → 電源/ホールドスイッチを「電源」の方向へ1秒以上スライドする(15ページ)。 • ホールドがオンになっている。 → 電源/ホールドスイッチを中央位置にスライドする(18ページ)。
スピーカーから音が出ない。	• 音量が絞られている(25ページ)。 • ヘッドホンをつないでいる(48ページ)。
ヘッドホンをつないでいても、スピーカーから音が出る。	• 再生中にヘッドホンを差し込むとき、最後まで差し込まないとスピーカーからも音が聞こえてしまうことがあります。 → いったんヘッドホンを抜いて、最後までしっかり差し込む。

症状	原因／処置
アクセスランプ、ピークレベルランプ、● 録音、► 再生／決定,、II一時停止ランプランプが点灯しない。	• メニューの「LED」が「オフ」に設定されている。 →「オン」に切り換える(75ページ)。
「メモリーが一杯です」が表示され、録音できない。	• メモリーがいっぱいになっている。 → 不要なトラックを消去するか、パソコンに保存してから、メモリーの内容を消去する(28、67ページ)。
「トラックが一杯です」が表示され、操作できない。	• 選んだフォルダ( )に99件のトラックが入っているため、録音やトラックのコピーができない。 → 不要なトラックを消去するか、パソコンに保存してから、メモリーの内容を消去する(28、67ページ)。
雑音が入る。	• 録音中に操作ボタンを押すなど、本機に触れたり、本機を手に持つことで雑音が録音された。 • 録音中や再生中に本機を電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。 • 扇風機、エアコン、空気清浄機、パソコンのファン等のノイズや風切り音が録音された。 → LCF (Low Cut Filter)機能を「オン」に設定する(41ページ)。 • 外部マイク(別売)で録音したとき、マイクのプラグが汚れていた。 → プラグをきれいにクリーニングする。 • ヘッドホンで聞いているとき、ヘッドホンのプラグが汚れている。 → プラグをきれいにクリーニングする。
入力される音が歪む。	• オート録音で、入力レベルが高すぎる。 → ガイドが表示される場合は、録音感度(ATT)スイッチを低(L)に設定するか、音源から本機を離してください。または、マニュアル録音に切り換えて、録音レベルダイヤルで調節してください。 • 入力される音に入力過多な部分がある。 → メニュー項目の「リミッター」を「オン」に設定する(42ページ)。
録音中「ピー」という音がする。	• ヘッドホンで録音中の音を聞いているとき、ヘッドホンがマイクロホンと近すぎると「ピー」という音(ハウリング)がする場合があります。 → ヘッドホンから出力される音を小さくするか、マイクロホンとヘッドホンを離してください。

症状	原因／処置
トラックを分割できない。	• メモリーに一定の空き容量がない。詳しくは「システム上の制約」をご覧ください(105ページ)。 • 選んだフォルダ(□)に99件のトラックが入っている。 → 不要なトラックを消去するか、パソコンに保存してから、メモリーの内容を消去する。 • システムの制約により、トラックのはじめと終わりで分割できないことがあります。 • 本機で録音されたファイル以外(パソコンなどでコピーしたMP3/WMA/AAC-LC（m4a）/LPCM（WAV)ファイル)は、分割できません。
他の機器から録音するとき、録音レベルが小さすぎたり大きすぎたりする。	• 他の機器のヘッドホン端子を使って本機と接続し、つないだ機器側で音量を調節してください。
再生スピードが速すぎたり遅すぎたりする。	• DPC（速度調節)スイッチが「入」になっているため、メニューの「DPC（速度調節)」で設定した再生スピードで再生されている。 → DPC（速度調節)スイッチを「切」にすると、通常の速度で再生されます。または、メニューの「DPC（速度調節)」で再生スピードを調節してください(52ページ)。
時計表示が「--：--」になる。	• 時計を合わせていない(16ページ)。
録音日時表示が「--y--m --d」または「--：--」になる。	• 時計を合わせていないときに録音したトラックには、録音した日付は表示されません。
メニュー表示の項目が足りない。	• 再生、または録音中は、表示されないメニューがあります(70ページ)。
電池の持続時間が短い。	• 94、95ページの乾電池の持続時間は、音量レベルを16で再生した場合の目安です。使用条件によって短くなる場合があります。
電池を入れたまま長い期間使用しない後で、使おうとすると電池がなくなっている。	• 使用しない場合でも、わずかですが電池を消耗します。この場合の電池寿命は、温度などの環境によっても異なりますが、約4ヶ月が目安です。長い間ご使用にならない場合は、電源を切るか、電池をはずしておくことをおすすめします(15ページ)。
充電式電池を使用した場合の持続時間が短い。	• 5℃以下の環境で使用している。電池の特性によるもので故障ではありません。 • しばらく使用していなかった。何回か充電、放電(本機に入れて使用する)を繰り返す。 • 充電式電池の交換が必要です。新しい充電式電池と交換する。

症状	原因／処置
メモリーカードが認識されない。	• メモリーカード内の別ファイル(画像データなど)によって、初期フォルダを作成するために必要な容量が不足しています。Windowsのエクスプローラまたは Macintoshのデスクトップなどから不要なデータを消去するか、本機でメモリーカードの初期化を行ってください。 • メニューの「メモリー」で「メモリーカード」を選んでください(34ページ)。 • メモリーカードを取り出し、裏表を確認して再度入れ直してください。
フォルダ名やトラック名が文字化けしてしまう。	• WindowsのエクスプローラまたはMacintoshのデスクトップを使ってパソコンで名前を入力した場合、本機で対応していない特殊文字や記号が混ざっていると、本機の表示窓では文字化けすることがあります。
「アクセス中...」表示が消えない。	• トラック数が多いと、長時間表示されることがありますが、故障ではありません。表示が消えるまでお待ちください。
起動に時間がかかる。	• トラック数が多いと、起動するのに時間がかかることがありますが、故障ではありません。停止画面になるまでお待ちください。
ファイルコピーに時間がかかる。	• ファイルサイズによっては、コピーに時間がかかることがあります。実行が終わるまでお待ちください。
USB ACアダプターで動作しない。	• USB ACアダプターは使用できません。
本機にコピーしたトラックが表示されない。	• 表示できるトラックは8階層目までです。 • 本機で対応しているLPCM（WAV)/MP3/WMA/AAC-LC（m4a)以外のファイルは、表示されない場合があります。主な仕様をご確認ください。
変更したメニュー設定が反映されていない。	• 設定変更直後に電池が抜かれた場合、本機のメニュー設定が反映されないことがあります。
文字情報をすべて見ることができない。	• 「再生時レベルメーター表示」が「オン」の場合タイトル名のみスクロールして表示します。「オフ」の場合はファイル名がスクロールします。アーティスト名はスクロールしません。
正常に動作しない。	• 電池を取り出して、もう一度入れ直す。
本機が動作しない。	• パソコンで初期化(フォーマット)している。 → 本機で初期化を行ってください(75ページ)。

症状	原因／処置
パソコンで認識しない。 パソコンからフォルダ、ファイルがコピーできない。	• パソコンから本機をはずし、再度接続してください。 • 付属のUSBケーブル以外のUSBハブ、またはUSB延長ケーブルをご使用の場合は、本機を付属のUSBケーブルを使って接続してください。 • 本機が対応しているシステム構成（90ページ）以外では、動作保証はいたしかねます。 • お使いのパソコンのUSBポートの位置によっては、認識できないことがあります。パソコン内に複数のUSBポートがある場合、別のUSBポートに接続してください。
本機にコピーしたファイルが再生できない。	• コピーしたファイルが本機で再生可能なファイル形式（.wav/.mp3/.wma/.m4a）と異なる。ファイルの名称を確認してください（47ページ）。
パソコンが起動しない。	• 本機をパソコンに接続したまま、パソコンを起動すると、パソコンがフリーズしたり、起動しないことがあります。 → 本機をパソコンからはずして起動してください。

エラー表示一覧

エラー表示	原因
電池が残りわずかです	• 電池が残りわずかのため、フォーマットやフォルダ内消去などができません。新しい電池の準備をしてください。
電池残量がありません	• 電池が消耗しています。新しい単3形アルカリ乾電池と取り換えてください。充電式電池の場合、充電器で充電するか、充電済みの電池と取り換えてください。
電源異常です	• DC IN 3V端子に本機が対応していないACパワーアダプターが接続されました。ACアダプターを確認してください。本機に付属のACアダプターをお使いください。
メモリーが一杯です	• 録音できるメモリー容量がなくなりました。不要なトラックを消去してからやり直してください。 • パソコンで「MEMORY CARD」を開いてすぐの場所(ルートディレクトリ)にファイルやフォルダを大量に転送した場合、本機で編集操作ができなくなる場合があります。不要なファイルやフォルダをパソコンにバックアップを行い、消去してください。
トラックが一杯です	• フォルダ内のトラックの合計が最大になったため、新規のトラックを作成できません。不要なトラックを消去してからやり直してください。
トラックマークが一杯です	• すでに上限までトラックマークを設定しているため、これ以上追加できません。不要なトラックマークを消去してください。
ファイル数が上限を超えるため分割できません	• フォルダ内のトラックの合計か、全体のトラック数が最大になったため、トラックの分割はできません。不要なトラックを消去してからやり直してください。
ファイルが壊れています	• 選んだファイルのデータが破損しているので、再生や編集ができません。
本機でフォーマットが必要です	• USB接続時にパソコンで本機をフォーマットしたため、動作に必要な管理ファイル作成ができません。録音、再生などの操作ができません。メニューで本機のフォーマットをしてください。
処理を継続できません	• メモリーの読み取りに失敗しました。電池を抜き差ししてみてください。 • 必要なデータをバックアップしてからメニューで本機をフォーマットしてください。 • 上記以外の場合は、ソニーの相談窓口(裏表紙)までご連絡ください。

エラー表示	原因
メモリーカードエラー	• メモリーカードスロットにメモリーカードを挿入時にエラーが発生しました。いったんメモリーカードを抜き差ししてください。それでも同じエラーが表示される場合は、別のメモリーカードをお使いください。
時計を設定してください	• 時計合わせをしてください。
トラックがありません	• 選んだトラックフォルダには1トラックも録音されていません。
同名のファイルが存在します	• 作成されるファイルと同名のトラックが存在しているため、ファイルの作成やファイル名の変更ができません。
登録がありません	• 「TAKE」または「KEEP」が設定されたファイルがありません。
トラックマークがありません	• トラックマークが設定されていないため、トラックマークの消去、全分割が実行できません。
メモリーカードがありません	• メモリーカードスロットにメモリーカードが挿入されていないため、「メモリー」の設定や「クロスメモリー録音」設定はできません。
ファイルが保護されています	• 選んだトラックが保護設定されているか、「読み取り専用」になっています。消去などができません。「読み取り専用」属性は、本機の保護設定でもはずすことができます。
メモリーカードがロックされています	• メモリーカードが書き込み禁止になっています。録音、消去、編集が実行できません。トラックを保存するには、書き込み可能なメモリーカードをお使いください。
読み取り専用のメモリーカードです	• 読み取り専用メモリーカードが使われています。録音、消去、編集が実行できません。
アクセスは禁止されています	• アクセスコントロール機能が有効なメモリーカードが使われているため、ご利用できません。
非対応のメモリーカードです	• 本機が対応していないメモリーカードが使われています。「メモリーカードを使う」をご覧ください。
停止してからメモリーカードを再挿入してください	• 再生、録音処理中にメモリーカードを挿入したため、メモリーカードが認識できませんでした。一度メモリーカードを抜いてから、停止状態のときに、挿入してください。

エラー表示	原因
非対応のデータです	• 本機で対応していないファイル形式のデータです。本機が対応しているファイル形式(拡張子)は、LPCM (.wav)ファイル、MP3ファイル(.mp3)、WMAファイル(.wma)、AAC-LCファイル(.m4a)となります。詳しくは本機の仕様をご覧ください(91ページ)。 • 著作権保護されたファイルは再生できません。
操作できません	• 複数のフォルダに同じファイル名のトラックが保存されているため、トラック移動やトラック分割ができません。ファイル名を変更してください。 • 本機で録音したトラック以外は、トラック分割、トラックマーク設定ができません。 • 分割実行位置の前後0.5秒以内にトラックマークが設定されているため、「トラックマーク全分割」が実行できません。 • ファイル名が最大文字数に達しているため、分割やテイク設定ができません。ファイル名を短くしてください。
新しいトラックで録音を継続します	• 録音中のトラックまたは音楽がファイルサイズの上限(LPCMは2 GB、MP3は1 GB)に達しています。トラックは自動的に分割され、録音を継続します。
マニュアル録音時に有効です	• 録音レベルスイッチが「オート」に設定されているときは、リミッター機能はお使いになれません。
レベルが高すぎます。録音感度　低(L)にするか、マイク位置を調整してください	• オート録音で、入力レベルが高すぎる状態です。録音感度スイッチの位置が高(H)の場合は、低(L)に変えてみてください。または、本機を音源から離してください。それでも解決しない場合は、マニュアル録音に切り換えることをおすすめします。
メモリーを切り換えて録音を継続します	• 「クロスメモリー録音」が有効に設定されている場合、現在のメモリーがいっぱいになると自動的に、もう一方のメモリーに切り換えて録音を継続します。
フォルダを切り換えます	• で表示されるフォルダにトラックがひとつもない場合、フォルダが表示できないため、表示できるフォルダに切り換えます。
分割位置付近のトラックマークを消去しました	• 分割実行位置の前後0.5秒以内にトラックマークが設定されていた場合は、自動的に消去されます。
LINE OUT設定時は無効です	• メニューの「Audio Out」が「LINE OUT」に設定されているときは、音量+/－ボタンで音量の調節はできません。設定を「ヘッドホン」に変更してください。
故障です	• 何らかの原因でシステムエラーが発生しています。一度電池をはずし、再度入れ直してください。それでも動作しない場合は、ソニーの相談窓口(裏表紙)までご連絡ください。

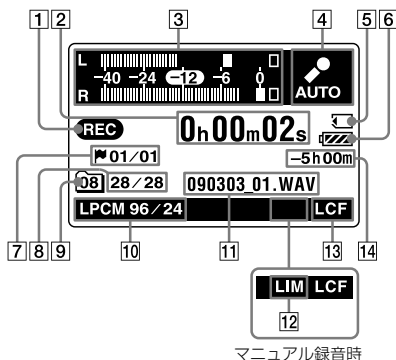
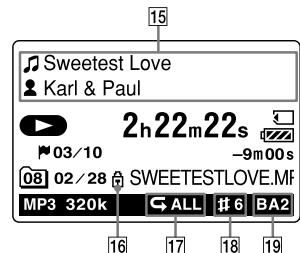
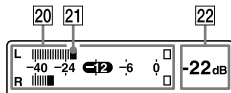
システム上の制約

リニアPCMレコーダーの録音方式では、いくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

症状	原因/処置
最大録音時間まで録音できない。	• 様々な録音モードを混ぜて録音すると、最大録音時間は各モードのの最大録音時間の間になります。 • 上記の理由により、実際に録音した時間（カウンター表示）の合計と、「録音可能時間」を合計した時間が、最大録音時間より少なくなる場合があります。
音楽ファイルを順番に表示、再生できない。	• パソコンを使って、本機に転送した音楽ファイルは、システムの制約により転送順にならないことがあります。パソコンにある音楽ファイルを1ファイルずつ本機にコピーすると、表示、再生の順番を転送順に合わせることができます。
録音中に自動的に分割されてしまう。	• 録音中のトラックまたは音楽がファイルサイズの上限（LPCMは2 GB、MP3、WMA、AAC-LCは1 GB）に達しています。トラックは自動的に分割されます。
英文字がすべて大文字になってしまう。	• パソコンで作成したフォルダ名称の文字の組み合わせによっては英文字がすべて大文字になってしまうことがあります。
フォルダ名、タイトル名、アーティスト名、ファイル名に「□」が表示される。	• 本機で表示できない文字が使用されています。パソコンで本機で表示可能な別の文字に置き換えてください。
A-Bリピート設定で、設定位置がずれてしまう。	• パソコンを使って、本機にコピーしたファイルによっては、設定位置がずれてしまうことがあります。

表示窓について

停止／録音時

マニュアル録音時

再生時（レベルメーター非表示時）

レベルメーター表示時

1 動作モード表示
本機の動作状態に応じて下記のように表示されます。
■：停止中
▶：再生中
REC：録音中
●II：録音一時停止中に点滅
▶II：再生一時停止中に点滅
◀◀ ▶▶：早戻し／早送り再生中
I◀◀ ▶▶I：連続トラック戻し／送り

2 時間情報
表示ボタンを押すたびに、時間表示が下記の順で切り変わります。
経過時間（時間、分、秒）、残り時間（−時間、分、秒）、録音日（年月日）、録音時刻（時分）

3 レベルメーター表示
オート（AGC）録音時での表示です。マニュアル録音時には、白黒が反転して表示されます。

4 オート(AGC)録音表示
オート録音時に表示されます。マニュアル録音時にはピーク値が表示されます。

5 メモリーカード表示
現在使用しているメモリーがメモリーカードのときにのみ表示されます。内蔵メモリーを使用中は何も表示されません。

6 電池残量表示

7 トラックマーク表示
現在位置のトラックマーク番号が分子にトラックに設定された総トラックマーク数が分母に表示されます。トラックマークが設定されているときにだけ表示されます。

8 位置情報表示
選んだトラック番号が分子にフォルダ内の総トラック数が分母に表示されます。

9 フォルダ表示
表示しているフォルダ情報を表示します。
01:録音可能なフォルダ。(フォルダ番号)
:フォルダ番号が取得できない管理下のフォルダ
:再生専用のフォルダ

10 録音モード表示
停止中はメニューで設定されている録音モードが、再生中または録音中はそのトラックの録音モードが表示されます。
LPCM 22/16、44/16、44/24、48/16、48/24、96/16、96/24:本機で録音、またはコピーされたLPCMファイル
MP3 64k、128K、320k:本機で録音、またはコピーされたMP3ファイル
パソコンなどからコピーされたファイルは、ファイル形式表示(LPCM/MP3)のみが表示されます。
WMA:コピーされたWMAファイル
AAC:コピーされたAAC-LCファイル
録音モード情報を取得できないときは、下記のように表示されます。
---:不明

11 ファイル情報表示
トラックのファイル名が表示されます。

12 リミッター表示(マニュアル録音時のみ)
LIM:「リミッター」が「オン」に設定されているときに表示されます。

13 LCF表示
LCF:「LCF (Low Cut Filter)」が「オン」に設定されているときに表示されます。

14 録音可能時間表示
使用中のメモリーの録音可能時間を時間、分、秒で表示します。
10時間以上の場合:時間
10分以上、10時間未満の場合:時間と分
10分未満の場合:分と秒。

⑮ ♫トラックタイトル名、👤アーティスト名表示
（メニュー設定によっては、この部分にレベルメーターが表示されます。）

⑯ 保護マーク
トラックが保護設定されているとき表示されます。

⑰ リピート表示
↻1：1トラックリピート
↻🗀：フォルダ内トラックリピート
↻ALL：全トラックリピート

⑱ キーコントロール表示
♯6：キーコントロールがシャープ(半音上)に設定されている時に表示されます。(段階により#1 ～ #6)
♭6：キーコントロールがフラット(半音下)に設定時に表示されます。(段階により♭1 ～♭6)

⑲ エフェクト表示。
BA1：ベース1
BA2：ベース2

⑳ レベルメーター
L/Rチャンネルの出力レベルを表示します。

㉑ ピーク位置表示

㉒ ピーク値表示

⚠注意　下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

内部を開けない

感電の原因となることがあります。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。とくにヘッドホンで聞くときにご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音がでて耳を痛めることがあります。

- 本製品の不具合により、録音や再生ができなかった場合、および録音内容が破損または消去された場合など、いかなる場合においても録音内容の補償についてはご容赦ください。また、いかなる場合においても、当社にて録音内容の修復、復元、複製などはいたしません。
- 本製品を使用したことによって生じた金銭上の損害、逸失利益および第三者からのいかなる請求につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- 録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前にためし録りをしてください。
- お客様が録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や、リニアPCMレコーダーの故障などによるデータの消滅や破損にそなえ、大切な録音内容は、必ず予備として、コンピューターなどに保存してください。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、以下の注意事項を必ずお守りください。

電池の種類については、電池本体上の表示をご確認ください。
種類によっては該当しない注意事項もあります。

充電式電池
ニカド(Ni-Cd)
ニッケル水素(Ni-MH)
リチウムイオン(Li-ion)

乾電池
アルカリ、マンガン

ボタン型電池
リチウムなど

⚠危険 充電式電池、乾電池、ボタン型電池が液漏れしたとき

- 充電式電池、乾電池の液が漏れたときは素手で液をさわらない。
- 液が本体内部に残ることがあるため、ソニーの相談窓口(裏表紙)またはソニーサービス窓口に相談する。
- 液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるため、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師に相談する。
- 液が身体や衣服についたときは、やけどやけがの原因になるため、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談する。

⚠危険 **充電式電池について**

- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 取扱説明書に記載された充電方法以外で充電しない。
- バッテリーキャリングケースが付属されている場合は、必ずキャリングケースに入れて携帯、保管する。
- 火の中に入れない。
- ショートさせたり、分解、加熱しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 火のそばや直射日光のあたるところ、炎天下の車中など、高温の場所で使用、保管、放置しない。
- 水などで濡らさない。風呂場などの湿気の多いところで使わない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり、傷つけない。
- 指定された種類の充電式電池以外は使用しない。
- 長時間使用しないときは取りはずす。
- 液漏れした電池は使わない。
- 種類の違う電池を混ぜて使わない。

日本国内での充電式電池の廃棄について

Ni-MH

ニッケル水素充電池は、リサイクルできます。不要になったニッケル水素充電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については有限責任中間法人JBRCホームページ http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照してください。

⚠警告 乾電池、ボタン型電池について

- 小さい電池は飲み込む恐れがあるので、乳幼児の手の届かないところに保管する。**電池を飲み込んだときは、窒息や胃などへの障害の原因になるので、ただちに医師に相談してください。**
- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 充電しない。
- 火の中に入れない。
- ショートさせたり、分解したり、加熱したりしない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 使い切った電池は取りはずす。長時間使用しないときや、ACパワーアダプターで使用するときも取りはずす。
- 新しい電池と使用した電池、種類の異なる電池を混ぜて使わない。
- 液漏れした電池は使わない。

⚠注意 乾電池、ボタン型電池について

- 火のそばや直射日光の当たるところ、炎天下の車中など、高温の場所で使用、保管、放置しない。
- 水などで濡らさない。風呂場などの湿気の多いところで使わない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり、傷つけない。
- 指定された種類の電池以外は使用しない。

お願い

使用済み充電式電池は貴重な資源です。端子（金属部分）にテープを貼るなどの処理をして、充電式電池リサイクル協力店にご持参ください。

索引

数字

アルファベット

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

著作権と商標について

著作権について

- 権利者の許諾を得ることなく、このマニュアルの全部または一部を複製、転用、送信等を行うことは、著作権法上禁止されております。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上権利者に無断で使用できません。

商標について

- "Memory Stick Micro"("M2")及び、MEMORY STICK™は、ソニー株式会社の商標または登録商標です。
- MagicGate™はソニー株式会社の商標です。
- microSDおよびmicroSDHCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Mediaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- MacintoshおよびMac OSは米国その他の国で登録されたApple Inc.の商標です。
- 本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。
- Sound Forgeは、米国またはその他の国における Sony Creative Software, Inc.の商標または登録商標です。

その他、本書で登場するシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では®、™マークは明記していません。

お問い合わせ窓口のご案内

本機についてご不明な点や技術的なご質問、故障と思われるときのご相談については、下記のお問い合わせ先をご利用ください。

- **ホームページで調べるには→ICレコーダー・カスタマーサポートへ**
  （http://www.sony.co.jp/ic-rec-support）
  ICレコーダーに関する最新サポート情報や、よくあるお問い合わせとその回答をご案内するホームページです。
- **電話・FAXでのお問い合わせは→ソニーの相談窓口へ（下記電話・FAX番号）**
  - 本機の商品カテゴリーは[ICレコーダー]です。
  - お問い合わせの際は、次のことをお知らせください。

    ◆セット本体に関するご質問時：
    - 型名：PCM-M10
    - シリアルナンバー：電池ボックス内
    - ご相談内容：できるだけ詳しく
    - お買い上げ年月日

    ◆付属のソフトウェアに関連するご質問時：
    質問の内容によっては、お客さまのシステム環境について質問させていただく場合があります。上記内容に加えて、システム環境を事前に分かる範囲でご確認いただき、お知らせください。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口	フリーダイヤル	**0120-333-020**
	携帯電話・PHS・一部のIP電話	**0466-31-2511**
修理相談窓口	フリーダイヤル	**0120-222-330**
	携帯電話・PHS・一部のIP電話	**0466-31-2531**
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。		

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「303」+「#」 を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX（共通）0120-333-389

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

* 4 1 5 6 5 4 1 0 6 * (1)